

2 回目の「四国へんろ」

〔松陰・六部・童財善子〕もどき

～スルーハイク・ドキュメンタリー～

(大 沼 ^{かおる} 香)

「四国 88 か寺霊場 歩きへんろ：通し、逆打ち」

&

「坂本龍馬脱藩の道」

か ん ぼ 貫(完)歩記録

		2017 (平成 29) 年 / 68 歳		
前行程	自宅発	4 月 3 日(月)		
本番行程	現地 88 か寺参拝	4 月 4 日(火)～5 月 14 日(日)	41 日間	door-to-door 49 日間
(特別行脚)	「坂本龍馬脱藩 の道」ウォーク	5 月 16 日(火)～5 月 21 日(日)	6 日間	
後行程	自宅着	5 月 22 日(月)		
備考	本札 88 か寺のみの通し・逆打ちに挑戦、札打ち終了後、1 番から 88 番に大坂越で戻った。5 月 15 日(月) の移動日において、「坂本龍馬脱藩の道」トレイルを敢行した。			

だいこう ろうこん
大香ブランド老魂サブタイトルは、

「四国 88 霊場一筆書きの逆打ち & 岬巡り 大作戦」

この間における様々な出来事は山ほどありますが、本書は要点を記述したものです。本書は、実地踏査中の歩いている時に浮かんで来た諸々の雑念を少し整理して自分の中のもう一人の自分（影）に対する報告書、自家撞着問答集です、遊び心をランダムに並べて書いたものです。あの世に持って行く自分史の一端です。

.....

なお、誤字脱字や日本語文法上の間違いが多数あるはずですが、本書は世に問うもの、広く配布するものではないので、考え方や過ちを指摘されても、批評・批判されても浅学菲才の私にとって、如何ともし難く詮無いことです、性格（性質）の投影故にこれを以って私の限界です。

可笑^{おか}しな処に気付いた場合は、読み手のお方が、その聡明な頭脳を以って、自由に解釈して貰えればいいし、想像力と創造力を逞しく発揮し、ご自分の世界へ反映して貰えればそれで結構でございます。

.....

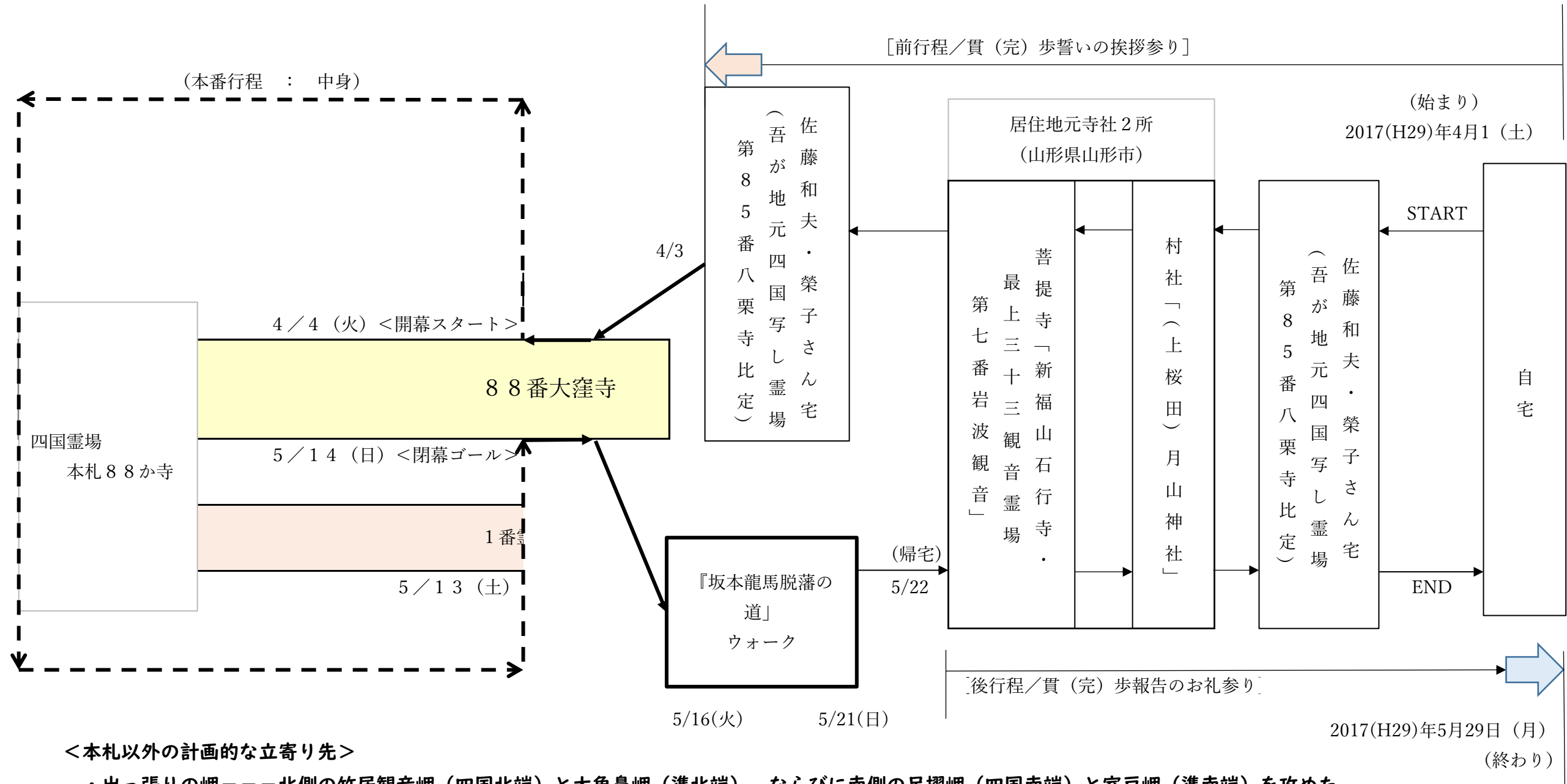
邪魔物をお持ちしたようで恐縮ですが、このような奇人変人の行動が読み手に取って、何かご自分の生き方のヒントになれば幸いと思って御挙げいたします。斜め読みでもして貰えればよく、内容について理解して欲しいとか、同情して欲しいというような押し付けがましい気はさらさらありません。

.....

四国遍路については、数多くの紀行文や案内書や學術書が販売されており、浅薄な私の及ぶ処ではありません、よって、本書は私の体験を通したことに絞って、概要を記述しています。

.....

2017(H29)年 【 第 2 回 目 】 四国へんろ（霊場参拝順礼）、通し・逆打ち（左回り周回＝
 88番スタート⇒87番⇒86番⇒・・・⇒1番ゴール⇒88番最終ゴール）
 引き続き、『坂本龍馬脱藩の道』ウォークの全体構図



<本札以外の計画的な立寄り先>

- ・出っ張りの岬――北側の竹居観音岬（四国北端）と大角鼻岬（準北端）、ならびに南側の足摺岬（四国南端）と室戸岬（準南端）を攻めた。
- ・ジョン万次郎資料館に立寄った。
- ・二つの神社（石鎚神社 と 月山―つきやま―神社）に参拝した。

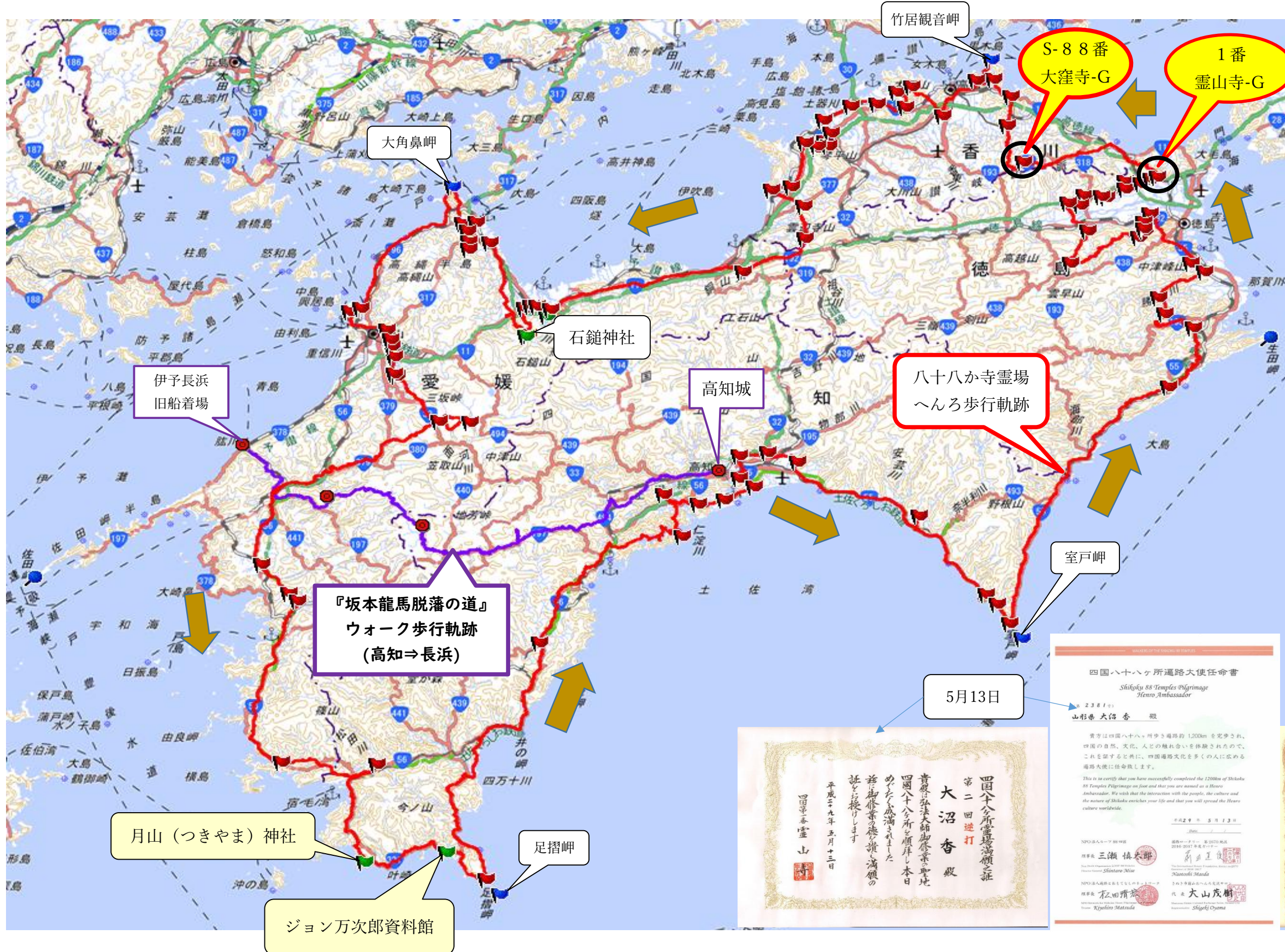
<こだわったこと>

- ・徒歩との比較検証のためにあえて可能な3か所について船を利用してみたが、電車・バス・タクシー・レンタカー・お接待車は一切利用しなかった。
- ・荷物を背負い切った。背負っている荷物の一部といえども、お店や宿やお接待に対し、預けることは一切しなかった。本堂・大師堂での参拝中も背負い、終わってから降ろした。

<特別企画>

『坂本龍馬脱藩の道』ウォーク

【第2回目】 四国へんろ一巡トラックログ／歩いたGPS軌跡



◎左図は、GPS機の軌跡（足跡）記録です。
 ガーミン社製GPS機オレゴン6500-「地図搭載、GPS軌跡（緯度・経度）&タイムの電子スタンプ機能」を携行し、全ての歩行軌跡（渡しの船を利用した部分もあり／別記）を記録したので、細部を確認すると、歩き状況と、立ち寄り場所が判明し、行動の客観的な科学的・デジタル証拠を保持している事になっています。
 軌跡をピックアップすると、一筆書きの交差しない閉曲線を描き、「四国怪魚の姿形」（私の呼称）となります。
 ◎赤色線は「四国88か寺霊場」参拝の足跡を表し、紫色線は「坂本龍馬脱藩の道」ウォークの足跡（トラックログ）です。

本札88番に戻った時に受領
 5月14日



【 第 2 回 目 】 四国へんろ {88か寺霊場参拝、通し・逆打ち (左回り周回 ; 88番⇒1番⇒88番)} & 『坂本龍馬脱藩の道』ウォークの移動行程集計表

＜ 歩行の距離・時間は、携行したガーミン社の「オレゴン650機 (地図搭載、GPS軌跡&タイムの電子スタンプ機能)」と「カシミール3D (フリーソフト)」により集計 ＞

No. 1

累積 日数	行動月日		歩行経路 (道程) 通過札所名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間			平均時速 km/h	天候	備 考	宿泊先	
	月 日	曜 日			開始 時:分	終了 時:分	時間:分				所在地	名称
	前行程	4月1日	(土)	地元「上桜田月山神社」参拝	---					晴・曇	地元の寺社に挨拶参り	山形市成沢
2017 (H29)	4月2日	(日)	菩提寺「新福山石行寺・最上三十三観音第7番札所岩波観音」参拝 旧滝山村八十八写し霊場第85番八栗寺対応 (比定) の佐藤さん宅 弘法大師参拝	---					快晴	山形市岩波		
	4月3日	(月)	自宅→88番近くの民宿八十窪まで新幹線その他で移動	---					快晴	香川県さぬき市多和		民宿 八十窪
本番行程												
1日目	4月4日	(火)	88大窪寺→(へんろ交流サロン)→87長尾寺→86志度寺→(宿)	24.7	7:33	15:20	7:47	3.2	快晴	88番より現地スタート	香川県さぬき市志度	旅館 栄荘
2日目	4月5日	(水)	→85八栗寺→(竹居観音岬)→84屋島寺→(宿)	33.1	7:10	17:55	10:45	3.1	晴/曇	竹居観音岬 (北)	香川県高松市観光町	ゲストハウス 若葉屋
3日目	4月6日	(木)	→83一宮寺→82根香寺→81白峰寺→80国分寺→(宿)	33.1	6:40	17:12	10:32	3.1	小雨		香川県高松市国分寺町	民宿 あずさ
4日目	4月7日	(金)	→79天皇寺→78郷照寺→77道隆寺→76金倉寺→(宿)	28.5	6:46	16:12	9:26	3.0	小雨		香川県善通寺市上吉田町	お遍路宿 風のくぐる
5日目	4月8日	(土)	→75善通寺→74甲山寺→73出釈迦寺→72曼荼羅寺→71弥谷寺→(宿)	16.5	8:10	14:25	6:15	2.6	小雨		香川県三豊市高瀬町	旅館 ほ志川
6日目	4月9日	(日)	→70本山寺→69観音寺→68神恵院→67大興寺→(宿)	24.0	7:16	14:35	7:19	3.3	小雨/晴		香川県三豊郡山本町	民宿 大平
7日目	4月10日	(月)	→66雲辺寺→(宿)	16.4	7:29	13:56	6:27	2.5	曇/小雨		徳島県三好市池田町	民宿 岡田
8日目	4月11日	(火)	→65三角寺→(宿)	33.1	6:31	18:58	12:27	2.7	雨		愛媛県四国中央市土居町	蔦廼屋
9日目	4月12日	(水)	→64前神寺→(石鎚神社)→63吉祥寺→62宝寿寺→(宿)	34.9	6:10	15:58	9:48	3.6	晴/曇	石鎚神社納経	愛媛県西条市小町	ビジネス旅館 小松
10日目	4月13日	(木)	→61香園寺→(星ガ森)→60横峯寺→(宿)	22.0	6:50	15:26	8:36	2.6	快晴	石鎚山遙拝於星ガ森	愛媛県西条市小松町	小町温泉 しこくや
11日目	4月14日	(金)	→59国分寺→58仙遊寺→57永福寺→56泰山寺→55南光坊→(宿)	36.8	5:30	16:54	11:24	3.2	快晴		愛媛県今治市北宝来町	今治ステーションホテル
12日目	4月15日	(土)	→54延命寺→(大角鼻岬)→(宿)	34.8	6:26	15:27	9:01	3.9	晴・曇	大角鼻岬 (準北)	愛媛県今治市菊間町	マリーナシーガル
13日目	4月16日	(日)	→53円明寺→52太山寺→51石手寺→(宿)→	37.6	6:02	16:29	10:27	3.6	晴/曇		愛媛県松山市湯之町	ふじや
14日目	4月17日	(月)	→50繁多寺→49浄土寺→48西林寺→47八坂寺→46浄瑠璃寺→(宿)	24.9	6:24	14:39	8:15	3.0	曇/雨		愛媛県久万高原町	桃李庵
15日目	4月18日	(火)	→45岩屋寺→44大寶寺→(宿)	30.9	6:48	16:27	9:39	3.2	曇/晴		愛媛県久万高原町	ガーデンタイム
16日目	4月19日	(水)	→(鶺鴒峠)→(下坂場峠)→(宿)	36.5	5:25	16:02	10:37	3.4	曇/快晴		愛媛県喜多郡内子町	ホテルA Z内子
17日目	4月20日	(木)	→(別格8番札所十夜ヶ橋)→(私立大洲病院)→(宿)→	17.4	6:40	14:42	8:02	2.2	曇/晴		愛媛県大洲市常磐町	ときわ旅館
18日目	4月21日	(金)	→43明石寺→(宿)→	25.5	7:04	14:33	7:29	3.4	晴/小雨		愛媛県西予市宇和町	民宿 みやこ
19日目	4月22日	(土)	→(齒長峠)→42仏木寺→41龍光寺→(松尾遍路道)→(宿)	35.1	6:02	16:22	10:20	3.4	快晴		愛媛県宇和島市津島町	ホテル アイリン
20日目	4月23日	(日)	→(四国のみち)→40観自在寺→(宿)	35.0	5:54	15:36	9:42	3.6	快晴		愛媛県南宇和郡愛南町	札掛の宿
21日目	4月24日	(月)	→(松尾峠)→39延光寺→(宿)	33.5	6:14	17:25	11:11	3.0	晴		高知県宿毛市小筑紫町	大島旅館
(中間日)												
22日目	4月25日	(火)	→(赤泊遍路道)→(月山神社)→(脇ノ川旧遍路道)→(宿)	35.6	6:19	15:51	9:32	3.7	雨/晴	月山(つきやま)神社納経	高知県土佐清水市竜串	ホテル南国
23日目	4月26日	(水)	→(ジョン万次郎資料館)→38金剛福寺→(宿)	25.8	7:01	15:04	8:03	3.2	雨	ジョン万次郎資料館	高知県土佐清水市足摺岬	民宿 田村
24日目	4月27日	(木)	→(白山洞門)→(足摺岬)→(窪津郵便局)→(宿)	25.2	7:06	14:58	7:52	3.2	曇・晴	足摺岬 (南)	高知県土佐清水市下ノ加江	安宿 (あんしゅく)
25日目	4月28日	(金)	→(伊豆田遍路道)→(四万十川渡船)→(宿)	32.5	6:37	14:53	8:16	3.9	快晴		高知県幡多郡黒潮町	民宿 日の出
26日目	4月29日	(土)	→37岩本寺→(宿)	31.5	5:42	14:51	9:09	3.4	快晴		高知県高岡郡四万十町	宿坊 岩本寺
27日目	4月30日	(日)	→(添蚯蚓遍路道)→(焼坂峠)→(宿)	34.7	5:56	15:25	9:29	3.7	快晴		高知県須崎市西崎町	一福旅館
28日目	5月1日	(月)	→(浦ノ内湾巡航船)→36青龍寺→(土佐遍路道)→35清滝寺→(宿)	44.8	6:27	16:46	10:19	4.3	快晴		高知県土佐市高岡町	ビジネスイン 土佐
29日目	5月2日	(火)	→34種間寺→33雪蹊寺→(県営フェリー)→32禅師峰寺→31竹林寺→	31.0	5:36	15:02	9:26	3.3	快晴		高知県高知市高須	ホテル土佐路・たかす
30日目	5月3日	(水)	→30善楽寺→29国分寺→28大日寺→(宿)	28.7	6:39	15:20	8:41	3.3	曇		高知県香南市香我美町	かがみ宿
31日目	5月4日	(木)	→27神峯寺→(宿)	35.0	6:35	15:54	9:19	3.8	曇/雨		高知県安芸郡安田町	民宿 とうの浜

累積 日数	行動月日		歩行経路(道程) 通過札所名・始終点	実歩行 距離 km	歩行時間			平均時速 km/h	天候	備考	宿泊先	
	月 日	曜 日			開始 時:分	終了 時:分	時間:分				所在地	名称
3 2 日目	5月5日	(金)	→26金剛頂寺(西寺)→25津照寺→24最御崎寺(東寺)→(室戸岬)→(宿)	37.8	5:31	15:55	10:24	3.6	曇/雨	室戸岬(準南)	高知県室戸市室戸岬町	宿坊 最御崎寺
3 3 日目	5月6日	(土)	→(みくろど)→(宿)	35.4	6:17	16:02	9:45	3.6	曇・小雨		高知県安芸郡東洋町	民宿 南国苑
3 4 日目	5月7日	(日)	→23薬王寺→(宿)	41.6	6:10	16:04	9:54	4.2	快晴		徳島県海部郡美波町	宿坊 薬王寺
3 5 日目	5月8日	(月)	→(由岐坂峠)→22平等寺→(四国のみち)→(宿)	34.8	6:02	15:28	9:26	3.7	快晴		徳島県那賀郡那賀町	道の宿 そわか
3 6 日目	5月9日	(火)	→(太龍寺直登)→(南舎心嶽)→21太龍寺→20鶴林寺→19立江寺→(宿)	24.6	6:08	15:08	9:00	2.7	曇・雨		徳島県小松島市立江町	宿坊 立江寺
3 7 日目	5月10日	(水)	→18恩山寺→(あづり越)→(地藏越)→17井戸寺→16観音寺 →15国分寺→14常楽寺→13大日寺→(宿)	31.6	6:34	15:41	9:07	3.5	曇・晴		徳島県徳島市一宮町	旅館 かどや
3 8 日目	5月11日	(木)	→杖杉庵→12焼山寺→浄蓮庵→柳水庵→[遍路転がし]→11藤井寺→(宿)	35.3	5:07	15:59	10:52	3.2	快晴		徳島県吉野川市鴨島町	旅館 吉野
3 9 日目	5月12日	(金)	→10切幡寺→09法輪寺→08熊谷寺→07十楽寺→06安楽寺→05地藏寺 →04大日寺→(宿)	31.3	6:08	15:06	8:58	3.5	曇・晴		徳島県板野郡板野町	へんろ宿 森本屋
4 0 日目	5月13日	(土)	→03金泉寺→02極楽寺→01霊山寺→(卯辰越)→(大坂越)→(宿)	26.2	6:44	14:26	7:42	3.4	雨/曇	1番で満願証受領	香川県東かがわ市引田	民宿潮風
4 1 日目	5月14日	(日)	→(中尾峠)→88大窪寺→(宿)	23.3	7:01	13:11	6:10	3.8	快晴	88番で結願証受領	香川県さぬき市志度	いしや旅館

遍路道実歩行合計(沿面距離) 1,262.0 km ←(差異60km)→ 1,201.9 ←遍路道ルート沿い計画(垂直投影距離)

(注1) 四国遍路の標準的な距離は1200km~1400kmとされているが、立寄りスポットの竹居観音岬・大角鼻岬、石鎚神社・星ガ森・月山(つきやま)神社を入れ、かつ参拝順序を札所番号の順番通り(連番)とする歩き方により、沿面距離1,261

1日平均 31.2 km 8:55 3.3 時間・分 km/h

1日当りの最長(5/1) 41.6 km (4/11) 12:27 時間・分
1日当りの最短(4/10) 16.4 km (5/14) 6:10 時間・分

距離 所要時間

(注) 宿へのアクセス、コンビニ・スーパー・食堂、遍路道沿いの名所旧跡への立ち寄り等ジグザク歩き方の影響による距離を含む。

以下は、「坂本龍馬脱藩の道」ウォークの記録

移動日	5月15日	(月)	(宿)→志度駅→(JR)→高松駅→(高速バス)→高知駅前 →高知市内、坂本龍馬ゆかりの場所の散策						快晴		高知県高知市堺町	ビジネスホテル土佐
1 日目	5月16日	(火)	高知城交差点→いの町→日高村→佐川町→(宿)	32.2	6:45	15:35	8:50	3.7	曇	スタート	高知県高岡郡佐川町	ビジネスホテルかりえ
2 日目	5月17日	(水)	→(朽木峠)→津野町→(布施坂)→(宿)	32.4	6:07	14:40	8:33	3.8	晴	携帯電話紛失	高知県高岡郡津野町	せいらの里
3 日目	5月18日	(木)	→野越→(神在居棚田)→梶原町→(宿)	26.0	7:36	15:19	7:43	3.4	快晴		高知県高岡郡梶原町	民宿 花の家
4 日目	5月19日	(金)	→(大越峠)→宮野々→茶や谷(竜王宮・竜王橋)→(青ザレ峠)→(韭ヶ峠) →(榎ヶ峠)→(宿)	32.1	6:16	15:28	9:12	3.5	快晴		愛媛県大洲市河辺町	あまごの里
5 日目	5月20日	(土)	→神納(御幸の橋)→(封事ヶ峠)→日除→(水ヶ峠)→(泉ヶ峠) →(耳取峠)→(石上峠)→宿間の船着場跡→大洲→(肱川沿い)→(宿)	37.4	5:15	15:29	10:14	3.7	快晴		愛媛県大洲市常磐町	ときわ旅館
6 日目	5月21日	(日)	→(肱川沿い)→伊予長浜の船着場跡(終了)	17.8	6:25	10:21	3:56	4.5	曇/晴	ゴール		
後工程	〃	〃	帰宅に向けて移動開始/(JR)伊予長浜→大洲→松山→岡山→新大阪								大阪府大阪市東淀川区	BHリブマックス新大阪
	5月22日	(月)	新大阪→(新幹線利用)→帰宅						晴		山形県山形市	[自宅]
	5月23日	(火)	菩提寺の石行寺&最上三十三第7番岩波観音参拝 地元の月山神社参拝						晴・曇	地元の寺社にお礼参り	山形市岩波 山形市成沢	
5月29日	(月)	旧滝山村八十八写し霊場第85番八栗寺対応(比定)の佐藤さん宅 弘法大師参拝						快晴		山形市上桜田(隣組)		

遍路実歩行合計(沿面距離) 178.0 km (5/21除く)
1日平均 33.6 km 8:54 3.6 時間・分 km/h

山形県山形市 [自宅]

第2回目 四国へんろのこと（概要）

第1回目 2015(平成27)年の「四国108か寺（本札88+別格20）霊場歩きへんろ；通し順打ち」に続き、先般2017(平成29)年4月から5月にかけて、今回は2回目の『四国88か寺逆打ち（逆廻り・左廻り）歩きへんろ』を行ったことから、その概要を整理したものです。行動の日程は前記のとおりです。なお、隙間となった昨年2016(平成28)年は、町内会（自治会）役員を仰せ付かったことから動きませんでした。

以下「お寺＝霊場」を「本札 あるいは 札所」という。私の遍路行動に係る態様は全てが「歩行」であることから「へんろ」とひらがなで記述する、ただし、一般的なことについては「遍路」と漢字記述します。また、本書に掲載の写真は、断りのない限り私が撮影したものです。

第1回目の四国へんろにおける行動態様と共通するものは、除き極簡潔に記述しています。

1. 行程

行程の全体像は前記P3～6のとおり。2017(平成29)年4月3日(月)の朝、山形駅より新幹線に乗り、岡山で四国行きに乗り換え、JR・バスを繋いで本札88番大窪寺（香川県）近くの民宿「八十窪」に投宿した。

いよいよ4月4日（火）、本札88番大窪寺をスタートし、逆打ち（逆廻り・左廻り）の参拝・納経により40日目の5月13日(土)、本札1番霊山寺（徳島県）に到達し、ここで満願之証を受領した。引き続き円環を成すように歩き通し、41日目の翌5月14日(日)にスタート札所の88番大窪寺に戻り、ここで結願証を受領した。それぞれの証は寺側が、私が提示した納経帳の朱印を確認して発したものだ。本「四国へんろ」スルーハイク行程の正味（88番→1番→88番）は40連泊41日間となった。

2. 4月4日（火）スタート理由と結果

今回もへんろのスタート日を何時にするか悩んだ。そして、標題のその日をスタート日に設定したが理由がある。四国遍路は、「死」と「再生」を疑似体験するところ、仮死状態に心身を投じることを仮想した旅路、いわゆる疑似再生フィールドと謂われることを意識し次のように考えた。

一般的に私達は、『4』は“し”と発音し、そんなことは迷信だと分かっているが、それは“死”の発音の“し”、“し＝死”に繋がる・重なる、と言って、『4』は不吉だと忌み嫌っている。

しかし、その忌みを敢えて貰うこととし、さらにはその“し”が二つ繋がるような4月4日を選択した、さらにその日は、六曜は『仏滅』であり、私のへんろにとっては非常に縁起が良いとした。

他方で、 $4 + 4 = 8 = 八 = 末広がり$ のはち、八十八か寺の八、8を90度ひねると $\infty = 無限大$ となる、なんと、目出度い縁起の佳い吉の数ではないのか。

【 結 果 】

結果として、円環・循環(周回)を成した5月14日(日)の日数字1と4を入れ替えると、4と1の並びになり、つまり、全歩行期間41日間(41日自)の4と1になった。ここにも『4＝し』と『^{ナンバーワン}N o 1（1は数字の初め＝次のスタートの始め）』が表れた、何らかの良縁を感じた。

まさにこの世は「陽中陰あり、陰中陽あり」の固定されない世界、融通無碍を本分とする私は“自由東

縛、拘束感を一番忌み嫌うのだ。” また、対人関係においては根性曲がり（佞人・奸人・佞奸、
どうじょうまん
 増上慢）とは絶縁を本分としている。「禍福は糾える縄の如し」の世の中である。

3. 本札 88 か寺以外の計画的な立寄り個所の実践

(1) 出っ張りの岬攻め

今回のへんろにおいても、図(表)-1 のとおりの亡き5人の吾が家族をあの世から連れ出して共に歩くこととした、また、岬への立寄り意図は、地形的特徴点となる突端においては眺望が素晴らしいことから、亡き家族に見せたく、昔を回顧しつつ供養を行うためであった。その心は、後記「4. 杖袋のこと」そして「14. 白衣の最終版」に繋がる。

図(表)-1					
続柄	私の亡父	私の亡母	私の亡弟	妻の亡父	妻の亡母
戒名	拓原力斗篤農居士	芳春富耀大姉	誠覚日剛信士	初陽成満信士	花顔妙雪信女

図-2を参照のこと。四国の地図を眺めた時に、海岸線沿いの突端、いわゆる岬の配置を眺めた時に、バランスの良さを感じる。西端には佐多岬[Ⓐ]、東端には蒲生田岬[Ⓑ]、北側では竹居観音岬[Ⓒ]（北端）と西寄りの大角鼻岬[Ⓓ]（準北端）、南側では足摺岬[Ⓔ]（南端）と東寄りの室戸岬[Ⓕ]（準南端）である。



図-2

その1；四国へんろの前調査という名目で3年前の2014(平成26)年に自家用車で四国一周しているが、その時、図-3佐多岬^A(四国西端)には同年5月11日(日)7時6分頃に、図-4蒲生田岬^B(四国東端)には同年同月13日(火)8時25分頃に、灯台の所まで踏み入れた。



図-3



図-4

その2；この度の歩きへんろにおいては、札所(88か寺ルート)を離れて、特に竹居観音岬^Cとおおすみのはな^D大角鼻岬^Dに立寄ることとし、図-5竹居観音岬^Cには4月5日(水)12時30分頃、図-6大角鼻岬^Dには4月15日(土)10時20分頃に立寄った。このいずれの写真も岬の突端の一角だが、背景は瀬戸内海の島々である。



図-5



図-6

その3；足摺岬^E4月27日(木)と室戸岬^F5月5日(金)については近くに札所——前者の近くに38番金剛福寺、後者の近くに24番最御崎寺があり、必然的に行くこととなり労を要さないが、第一回目は行かなかった場所で、今回は足を踏み入れられることが可能な場所の突端まで行って見た。

(2) 神社参詣(神拝)

寺院対象のへんろに中和化(神仏のバランス)の意図と、彩りを添えるためにシンボリックな二つに絞り立寄った。いずれからも御朱印を貰った。

a. 石鎚神社(本殿)

石鎚神社は日本七霊山——日本三霊山とされる、富士山(静岡県・山梨県)、立山(富山県)、白山(石

川県・岐阜県)の3つの山に、大峰山(奈良県)、釈迦ヶ岳(奈良県)、大山(鳥取県)、石鎚山(愛媛県)の4つを合わせた七つ—の内の一つ石鎚山(標高1,982m/近畿以西の西日本の最高峰)をご神体とする御社にて、山頂に頂上社、中腹(7合目)に成就社と土小屋遙拝殿、そして愛媛県西条市の平野部に位置する本社(本殿)、この四社を合わせて石鎚神社という。

□1; 4月12日(水)、本社(本殿)を尋ね参拝・納経した。

□2; 翌日の13日(木)、60番横峯寺へんろに合わせ、そこから500m登った所の「星ガ森遙拝所」に行ってみた。当日はめったにない快晴ということで雲一つなく、図-7のとおり在所々に残雪を抱いた石鎚山の全容を眺めることが出来て感激した、機会を見て是非とも登拝したいという願望が湧いて来た。

b. ^{つきやま}月山神社(高知県幡多郡大月町)

「つきやま」と読む、元々は「守月山月光院南照寺」と呼ばれ、神仏混合の霊場であった。明治以降は^{つきよみのみこと}月夜見尊、^{うかのみたまそん}倉稻魂尊を祭神としている。この神社に強い関心を持つに至った理由は次の二である。

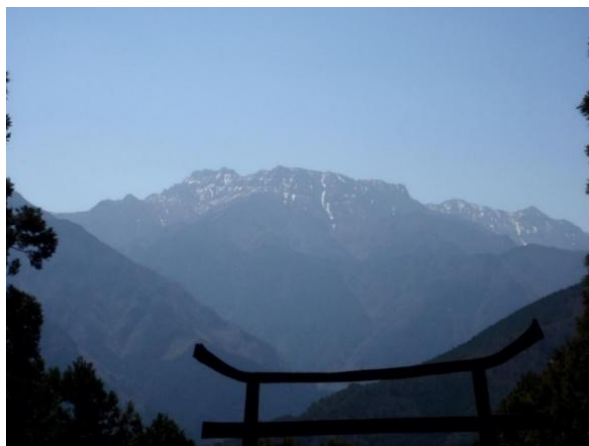


図-7



図-8

その1; 遍路のガイドブック等を見れば、次のような事が記されていること。

古来、38番金剛福寺(足摺岬)を打ち終えた後の遍路は、次のいずれかの道程を選ぶことを不文律として来たと伝えられている。なお、不文律と言っても何か祟りの云われがあるのでは?と思われるが、はっきりしないそうである。

○(図-8の赤色/白黒印刷では濃い方・上方) 打ち戻って、^{ささやま}39番延光寺から篠山神社にお参りする。(37番⇒38番⇒39番⇒40番⇒篠山神社⇒)

○(同図の緑色/白黒印刷では薄い方・下方) この^{つきやま}月山神社お参りを終えて39番延光寺を打つ。(37番⇒38番⇒月山神社⇒39番⇒40番⇒41番?)

今回の私は、逆打ち(41⇒40⇒39⇒月山神社⇒38⇒37⇒)であるがこのルート歩いた。

なお、^{つきやま}月山神社の場所は海に近いが、境内(図-9)の後方は山で、森に囲まれ幽暗・幽玄さが感じら

れた。どこにでもあるような神社ではあるが、何と言っても特徴は、「月山」と言われるようになった^{つきやま}月

形の石が、境内にあることである。



(月形の石)

図-9

その2；吾が地元には「月山」と書いて、「がっさ^{がっさん}ん」と称する「月山神社」(図-10)があり、その違いに関心があった。祭神は「月読尊^{つきよみのみこと}」であり、「月山神^{つきやま}社」の祭神「月夜見尊^{つきよみのみこと}」と漢字は少し違うが元は同じ神である。



図-10

c. ジョン万次郎資料館 (高知県土佐清水市)

歴史上の人物で大好きな3人は、江戸幕末に活躍した土佐(土佐長浜)の中浜(ジョン)万次郎、長州の吉田松陰と土佐(高知)の坂本龍馬である。その中の万次郎は、わが国最初の国際人と言っても過言ではない。漁師の子、高知市宇佐(当時は宇佐浦)へ出稼ぎのおり、14歳の時、5人で乗船した船が遭難し島に漂着した。そこでは、アホウドリとイタドリだけを食した無人島での生活。アメリカ捕鯨船から発見され、ホイットフィールド船長との出会いにより一人アメリカ本土に渡り、英語や数学、測量、航海術といった様々な知識と技術を吸収、10年ぶりに帰国し、土佐藩から武士の身分を与えられた。身分制度が特に厳しい当時であって、これは異例の出世となった。咸臨丸にも乗船(幕臣の勝海舟が艦長、福沢諭吉も同乗)し通訳として活躍した。彼の行動・経歴が、坂本龍馬をはじめとする幕末の土佐の青年達に強く影響を与えた。その功績をより深く知るために同資料館に立寄ったが、館内を巡回している内に、不撓不屈のジョンマン・スピリットに触れ、その生涯に感動のあまり無性に涙が出てしばらく止まらなかった。

4. 杖袋のこと

遍路の七つ道具・装備品の一つに金剛杖があり、その杖の握り部には、杖カバーを付けてくださいということで販売されている。私は金剛杖の代わりにウォーキング用ダブルストックを使用するが、図-11のように手元に黒系統のものと赤系統のものの杖カバーを付けている。他のお遍路さんとすれ違いの時に、あるいは立ち話の時に「それ、なあに？」と何度か聞かれた。

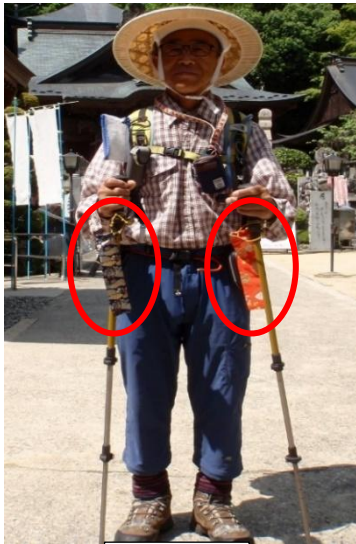


図-11

「これには、私および妻の亡き家族をあの世から連れ出し、これに入って貰い、四国へんろを一緒にさせている。黒系統には二人の亡き父親と亡き私の弟を、赤系統には二人の亡き母親を・・・」と言ってきた。

5. 逆打ちの困難さ

四国 88 か寺の番号は右廻りに付定されている。巡拝順序については、1 番から順番どおりに打たなければならない訳ではなく、どの寺から始めても OK である。いずれにしても、ある札所からスタートし、右回りに(注)納経して行くことを「順打ち」という。逆回り(左廻り)を「逆打ち」といい、順打ち(右廻り)で修行している云われるお大師様に会えるという信仰・伝説がある。

(注) 納経とは、お経を唱えて(納めて)参拝すること、結果、その証としての御朱印を貰うことになる。また、それら一連の行為を「札を打つ」という。

現地の道案内標識の設置、誘導シールの貼付一例は、図-12 のように一般的な順打ちに資するように取付されている、よって、逆打ちには、標識は非常に分かり難い、道に迷い易く苦労が多いとも言われている所以だ。

他のお遍路さんから聞いた話。――昨年 2016(平成 28)年は 60 年に一度の「丙申^{ひのえさる}」の年と閏年が重なって縁起が良いということで逆打ちが多かった。初回からより困難な逆打ちに挑戦の人もいたのだ。ある人が 88 番大窪寺⇒87 番⇒86 番⇒85 番まで打って、ところが、しよっちゅう道を間違えう事から「ストレスばかり溜まる、何がお大師様のご利益だ、(迷信で絶対に会えない訳だが)ばかばかしい」、とになってご破算! 1 番霊山寺へ行って、打ち直しを行い順打ち(1 番⇒2 番⇒3 番・・・88 番)で廻った。――とのことであった。

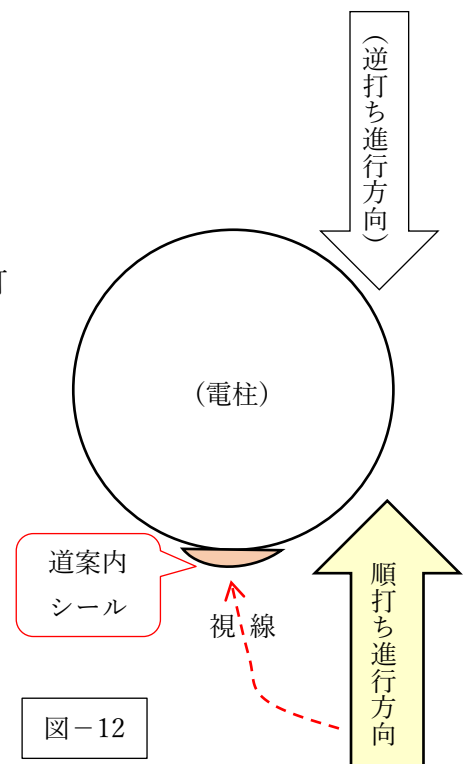


図-12

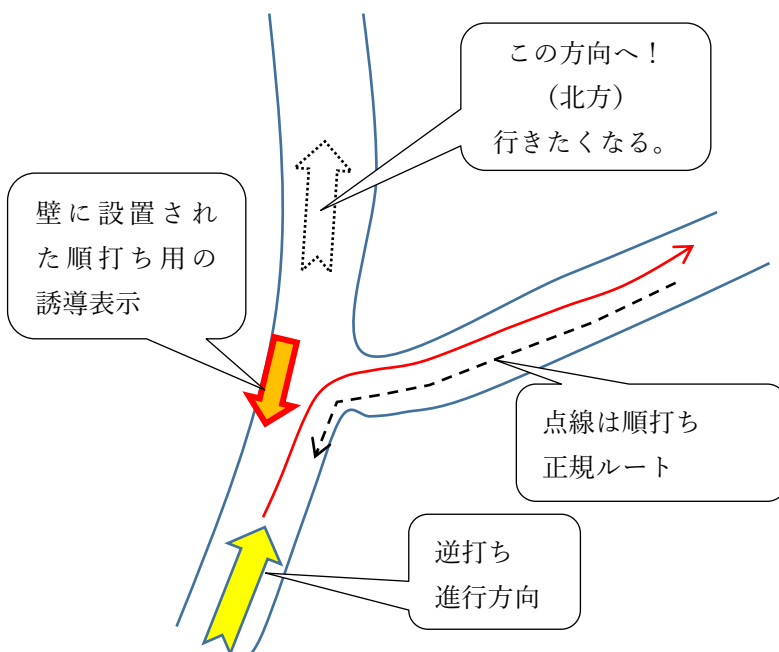


図-13

さて私のこと(図-13を参照)、逆打ちの進行では、「壁に設置された順打ち用の誘導表示」が目に入ると、「この方向へ(北方)」へ誘導されていると考えがちになる。私は、GPS 機に歩行の予定ルートを入れていたことから勘違いは少なかったが、現地の表示を頼りに歩く人は、図-12 と合わせて、とても間違い易いというのは体感した。間違えるのも修行の一つというが、それは強弁であり、時間の無駄とストレスを溜めるのみである。よって、逆に言えば、順

打ちはGPS機がなくてもスピーディに遍路道を辿れるということになる。

ところで、2年前の第1回目へんろ時のルートの8割は、今回も同じルートを通り、同じ札所に立寄っているにも係らず、殆ど思い出すことが出来なかった、まったく新しい土地に初めて来たという感じであった。順方向と逆方向では視界に入る環境が別物のように映ってしまうのだ。逆打ちのためと言い訳したくなるが、加齢に伴う記憶力の低下が原因と指摘されてもやむを得ないが・・・。

6. 他の多様・多彩なお遍路さん

(1) 24日目4月27日(木)、足摺岬より4.5kmほど北に進んだ高知県土佐清水市津呂地内で、宮城県大崎市の真言宗寺院僧侶の藤井さん(図-14)と立ち話、テント泊の野宿派、大柄で明るい好感度の人。「檀徒から50日間休暇を貰うことで了解を得て来た、しかし、一度葬儀があって戻り再開した。時々、日蓮宗の関係者がずっと追いかけて来て、遍路は邪道・不義と言って、いろいろと文句をいう人がいた。信教の自由を侵害する困ったものだ。」と話された。きっと自分の心の中での誓い・約束事があったのでしょう、予期せぬ事態への柔軟な行動は誠に素晴らしい!



図-14

<後日談>

その後、結願したのか、気になって連絡を取って見たかったのだが、連絡先を探すに思案し、2020(R2)年5月、インターネット検索により宮城県大崎市の弘法寺のつぶやき?に「藤井師には2日間案内運転ありがとうございました。救援活動支援(3.11東日本大震災関連)・・・」という書き込みを見て、同寺に問い合わせたところ、私の会った藤井さんであることが分かり、研修中の高野山からかけて頂いた電話で話すことが出来た。

(日く)四国へんろでは八十八か寺を全周し無事結願を果たした、高野山にも足を延ばしお礼参り、さらに、大峰奥駆道(おくがけみち)を縦走踏破、また、四国へ渡り石鎚山、その他の山々を修行行脚した。

もちろん、全行程の始終は一人単独行動とのことでした。精力的な行動に敬服するのみです。一人の人間として、仏道を極めんとする人間としてひた向きの篤い志が伝わって来た。このような大遍路を敢行した人は彼だけだろう、大快挙!

藤井住職さんが踏破された大峰奥駆道^{おくがけみち}について関連として簡単に補完する。修験道の開祖『役のえん行者』(役小角^{ぎょうじゃ})によって開かれた1300年の伝統を持つ山岳信仰の聖なる道、ユネスコの世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』(2004年〈平成16年〉7月登録)の一部となっている。

私は、正味2010(平成22)年9月24日(金)奈良県吉野川スタート⇒9月29日(水)熊野本宮大社ゴールまでを5連泊6日間で「逆峰」、実歩行距離120kmを歩行踏破した。簡素な報告書を別記している。藤井さんは何日かかったのだろうか。ルートは図-15のとおりである、順峰(熊野→吉野)^{じゅんぶ}・逆峰^{ぎゃくぶ}のいずれにしても相応の体力と覚悟が必要である。最大の覚悟は水場が少ないことであった。道は奥深くかつ起伏が激しく、史跡が点在し、まさに山岳修験の道場に相応しい聖地であった。61歳での逆峰だったが、この道を若い時に知っていれば、「順峯」^{じゅんぶ}にも挑戦出来たと思っている、悔しさが残っている。

(2) 26日目4月29日(土)、於宿坊岩本寺。相部屋になった小野さん(5万円を支払い、先達資格入手



図-15

し赤い金剛杖持参)がある人を電話で一所懸命慰めていた。「途中で一緒になった人、結願まで歩き切ると誓った人、ところが、途中で足に豆が出来て、足裏がぐじゃぐじゃになって、歩き通せなくなった、やむを得ずバス利用に切り替えた。しかし、悔しい・悔しいと自分を責めて、呵責に悩んでいるので、慰めたのだ。」と話された。

*** 男の友情なのか？ それにしても、歩き通すと誓って来て、途中断念の悔しさは十二分に同情できる。しかし、慰めの言葉を貰ったからと言って悔しさは簡単に癒えるものではない。私も、今回、初日から左足裏に

豆が出来て、炎症が酷くなり、二日目の

4月5日から1週間はととても痛く、足を引き釣りながら歩いた、途中リタイヤの弱気も出たが、自分で決意したことと強く言い聞かせ、弱音は他言無用、他人への愚痴はみっともない、男が廃ると思ひ、我慢と辛抱で黙々と歩き通した。

(3) 27日目の4月30日(日)の朝、37番岩本寺宿坊をスタートしてまもなくの6時5分頃、ある歩きお遍路さんが私の進む方向に合流するように出会った。私は「おはよう、逆打ちですか？」と声を掛けたら、「いや、順打ち！ 38番金剛福寺への方向ではないですか？」「いや、こちらは36番青龍寺への向きだよ」と言ったら、「あ！！間違った、逆だ！！」とびっくりして勘違いを自覚していた。その時の位置関係は図-16のとおり。

*** 私はGPS機を携帯しているのでそんな真逆の方向の勘違いは無いが、とにかく方向間違をする人達が多数いた。あのへんてこな地図(後述8. 遍路用地図のこと)のみに頼る人は、当たり前だろうと思う。その地図のことだけではなく、私の経験からしても頭脳の疲労が蓄積し、認知度が低下するのも一因だろう。

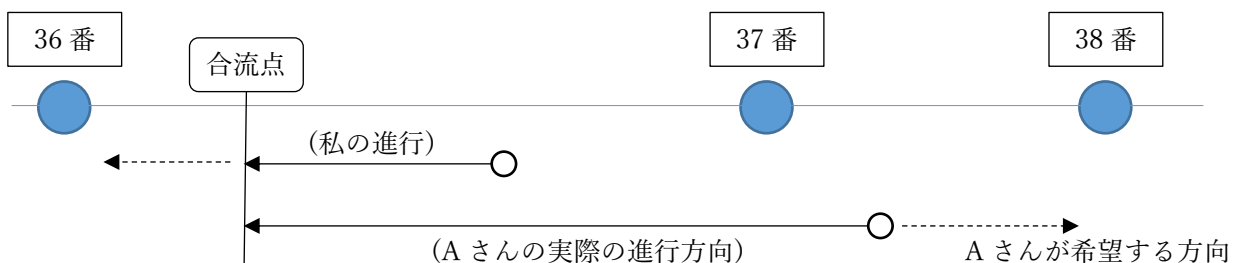
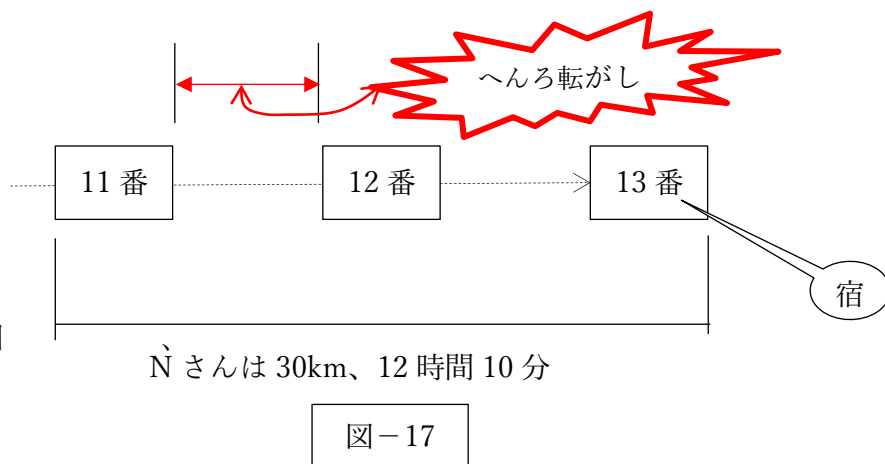


図-16

(4) 28日目5月1日(月)、36番青龍寺境内で会った広島県の中根さん(69歳?)のこと。「①PHS携帯電話(Yモバイル)が4日間も不通状態、途中でヤマダ電機に入ったら『キーの押しミス(機内モ

ード)』と言われてすぐに直してくれた。②郵貯カードの暗証番号の記憶違いにより使用不能、現金を妻より13番大日寺に送って貰うことにした、11番藤井寺を7時20分頃スタートし、12番焼山寺を経て大日寺に19時30分頃に着いた。快く玄関を開けてくれ、宿坊ではないが食事を出してくれた、また、泊めさせて貰った。この時、携帯が繋がらなくなった当日で、どうしても大日寺まで行く他はなかった。」と話された。

*** 図-17を参照のこと。特に11番～12番ルートは、四国遍路の中で最も難関・難所——— 厳しいアップダウンの『へんろ転がし』と言われる所(区間)、そこを含む出来事。中根さんは12時間10分も歩いたのだ、語る時のキラキラとした眼、あきらめない根性、簡単に放り出さない立志に感動した。この時の私は68歳であった。



(5) 39日目5月12日(金)、7番十楽寺と6番安楽寺(いずれも徳島県内)の間で、図-18のとおり^{まなこ}の上下全て白一色(全身白装束)で統一した若い人(大阪の竹田さん)と会った。「白衣を着用するという事は、擬死の世界に迷い込む事、徹底して白に拘った、靴は着用せず地下足袋である。荷物は14kgほど」と話された。

*** とても明るい、しかも落ち着いた好青年(20代)であった。『宇宙服だね!是非結願を』とエールを送った。別の所でも着衣は白色に統一していたお遍路さんはいたが、ザックは色付きであった、また、草鞋を履いたが、途中で地下足袋に変えたという人とも出会った。



図-18

(6) 四国遍路11巡目のベテラン・70歳。「今年は初回という人は少ない感じ。複数回の人が始どで、一度四国遍路を経験すると、理由もなくまた行きたくなる、という心情が湧く、これを『四国病』が発症したという。1年に春と秋の2回行く人もいる。75歳まで歩く。」と話された。

*** 私も「四国病」が発症しつつある、もう一度行きたいが、行けるかな?

(7) 通し歩き遍路を行える4点のポイントを言う人がいた。「①歩き通せる体力があること。1日30km前後、8時間から10時間、40日間から50日間歩き続ける体力が必要である。②時間的余裕があること。40日間から50日間の時間をゆったり確保出来る必要がある。③それなりにお金があること。一般的には1日当り1万円ほどを要すると言われている。④家族が健康であること。自分自身が健康で歩けるといっても、家族に不具合な人がいれば、長期間遍路には出られない。」と話された。

*** 私は①～③の要件は自覚していたが、④を聞いて、改めてなるほどと同感した。

7. 世界遺産に向けた提言(この本文を関係機関事務局に送付し提言した。)

「四国 88 箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録に向けた運動が展開されているが、私が認定側であれば、現状では反対である。その理由と改善案を提言する。

寺の関係者、宿の皆様、立寄り個所のみなさん、その他多くの関係者からはとてもとても親切な対応を賜った、これらには何も文句はない。しかし、以下の2点が気になった。

①車の運転者の殆どはマナー欠如

町中の遍路道（旧道）は、くねくねとして細く、路側帯表示用の白線は引けなく、住民の生活道路でもある。そこを通る車の殆どはスピードを緩めない。私の横すれすれを平気で通過する。

お遍路さんを特別扱いし、徐行せよ、というのではない。歩行者との間隔を 1.5m 以上確保出来ない、歩道のない道路では、少なくともスピードダウンをお願いしたい。スピードダウンして貰うと歩行者にとっては、配慮された、とうれしい気持ちになる。

「スピードダウンは運転手のお接待」！というキャッチフレーズでマナーアップ運動を展開したらどうなのか、強制的でなく自覚を促す文言を工夫したらどうなのか。

②遍路道の殆どは舗装道路

明治・大正・昭和の国土開発に伴い遍路道が車道・舗装化されたのは止むを得ない。しかし、まだまだ山の中に残されている、埋もれている道が沢山あるようだ。関係者のこれまでの取り組みに敬意を表すが、さらなる努力を傾注し少しでも復元して欲しい。

- ✓ 関連その1；私が歩いた道に「通行禁止」の表示のある所が3か所あったが、いずれも私は歩いて見た。危険は無くまったく問題がない、そんなところよりももっと危険と思われる所があった。その3箇所は2015(平成27)の通し順打ちの時も既に通行禁止扱いであった。こんなことでは、役所の担当者の思い付きで通行禁止にし、フォローしていないことの証左であり、とても、世界遺産に耐えられない。

山道は、元々は多少の危険要素はある、敢えて注意喚起するのであれば、「ここからは自己責任」というくらいの標識で十分である。「^{とうりせいけい}桃李成蹊（桃や李の花は美しく、かつ、実はおいしいために自然と人が集まり、自然と道が出来るといこと）」に学び、歩いて貰うように誘導すれば道は自ずと固まるものである。

- ✓ 関連その2；40日目の5月13日(土)、1番霊山寺満願後、88番大窪寺に向けたルートを辿り、大坂越え通過のおり、4人と出会った。その際「なぜ、ここを歩くの？」と尋ねたら、皆「土の山道の遍路道を歩きたいのだ、舗装された道は歩きたく無い！」とおっしゃられた、そう、歩き遍路の殆どは、山道（へんろ転がし）を期待している、のである。
- ✓ 関連その3；公道に対する歩道設置10か年計画を推進して欲しい。市街地の公道と遍路道がやむを得ず重複しているのであれば、国（国土交通省）と連携して、片側だけでも良いので、歩道設置の長期計画を立てて整備して欲しい。

8. 遍路用地図のこと

殆どの遍路に取り組む人の持参するのが「へんろみち保存協力会」編の地図編（図-19）である。しかし、これは、紙の上が北になっていない。人間の自然感覚に合わない、これが非常に使い難い。例えば、45番岩屋寺近傍の所について、日本版「へんろみち保存協力会」編と英語版（同じ「へんろみち保存協力会」編／図-20は、カナダ人が持っていたもの）を比較してみた。なお、英語版を注視すると日本語とのレイヤー（重層化）仕様になっているようだ。四角で囲んだ範囲は、まったく同じ場所である。この場所においては日本のものは上が南、つまり下が北、他の場所（ページ）も様々な方角、アベコベ方向で描い



図-19

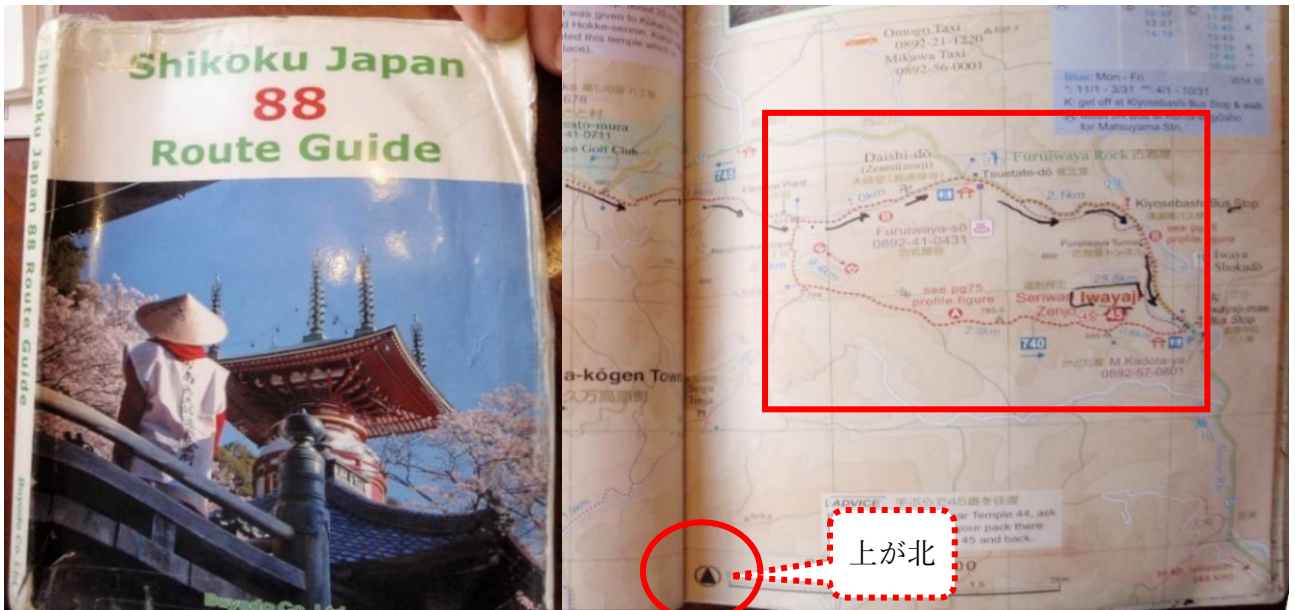


図-20

ている。ところが英語版は、上が北で、全ページそのようになっている。人間の自然な感覚に合致している。帰宅してから私も英語版を購入してみたが、間違いなく全ページ紙面の上が北である。

どんな方角で描いても、慣れれば問題は無いなどと関係者は強弁するだろう。しかし、地図とスマホの地図を比較しながら活用することもあり、ぱっと見た時に勘違いし易いもので非常に使い難い。全図の上を北にすると紙に無駄が生ずるとか、ページ数が格段に増えるとか、小役人根性を真似るように、例のやりたくない理由の御託を並べるであろうが、次回の改定の時は是非とも人間の一般感覚に合わせて欲しい。現に英語版はそうなっているではないか。

なお、そのカナダ人に日本のものを見せたら、目を白黒させながら頭をくるくる回して、「オーノー！」と目が回る仕種をしていた。皆さんが言っていることだが、近年は年々外国からのお遍路さんが増加している。数人から見せて貰ったが、共通して同じガイドブック（図-20）を持参していた。

同地図の距離は、垂直投影（水平）距離なのか、沿面（斜角）距離なのか、ということもあるが、パソ

コンソフトで比較検討すると、水平距離とほぼ等しい。それらの件について、同会に問い合わせたが、明快な回答は得られなかった、また、紙の上下と南北方向に関しては、他からも要望が来ているということで、検討しているとのことであったが？

9. 私から提供する話題（小話）

様々な人との交流の中で、間合いを見て私から出す話題がある。

（1）納経所の女性から教わった誘客作戦

第1回目のへんろにおいて、ある納経所の女性から言われたこと。

「あなたはここの寺は何番で名前は分かるよね」「○番◇◇◇寺だよ」「それでは、1番からこの前の札所まで言ってごらん」「1番は霊山寺、2番以降は分からない・・・」「そうだろう、だったら全部を言えるまで何回でも遍路に来てよ!」れには、参った！ 同じようなことを数人から聞いた。

こ四国に訪れる回数が増えるほど、四国にお金が出下される。四国の名産品の御託を並べるよりも、この言い方が観光客誘致の最高の金言である、と紹介する。

（2）今度は私からの提案

八十八(88)は、一方では末広りの八が二つで目出度さが倍化、他方で、言い方によっては、はちはち⇒はっぱ⇒^{はんぱ}半端⇒中途半端に繋がる可能性大為る。よって、88か寺だけではダメ、別格20霊場を加えて、108か寺の遍路に組み立てて欲しい、と。つまり、108か寺巡拝を恒常化するような観光戦略・PRを積極的に推進したらどうなのか。20か寺が増えれば、1週間～10日間の滞在が長くなり、四国に投下されるお金が増えることになる。

（3）笑い話の一つ

水分補給のためにザックの中に水補給用ハイドレーションパック（図-21）をザックに入れて背負っているが、パックは見え、吸い口部分に繋がるホースの一部が外に出ることから、通りがかりのある人から「それ酸素？」と言われた。私は病人と思われたのだ、「参った！」であった。



（4）1番霊山寺から88番大窪寺に戻って円環成就

88番大窪寺からスタートしての逆打ちは1番霊山寺に達すれば、すべての札所を参拝したことになり、それで終了、でも良いが、88番に戻って円環を成す人が多くなりつつあるとのこと、その理由はスタート地点の札所にお礼参りすべし、とのことのようだが、私の場合はもっと深い理由の意義付けをしているが、ここでは割愛する。なお、図-22中の実線は、私の今回のGPS軌跡である。陰陽の女と男は互いに結び合い、開いている所を閉じてこそその子孫繁栄、五穀豊穰というもの。

10. 先入観の怖さ

5月10日（水）。図-23の17番井戸寺の処で、ある地元(?)の方が「お兄さんお兄さん、貴方の方向が違うよ、逆だよ」と一所懸命叫んでいる人がいた、最初、誰かに言っているのだろうと思っていたが、よく素振りを見ると、私に対するアドバイスであった。「私に対してなの?」「そうだ(善意?が有り余って私を怒るような口調)」「私は逆打ちだよ」と言ったら“しゅん”となり、バツが悪そうにしていた。遍路は順打ちが当たり前だと思い込んでいる先入観の塩漬け状態の証左である。親切心が強過ぎて、いつのまにか、独善と先入観の押し付けになってはいないのか。「過ぎたるは猶及ばざるが如し(度が過ぎることは、足りないことと同じくらい良くない)」。私も用心用心!

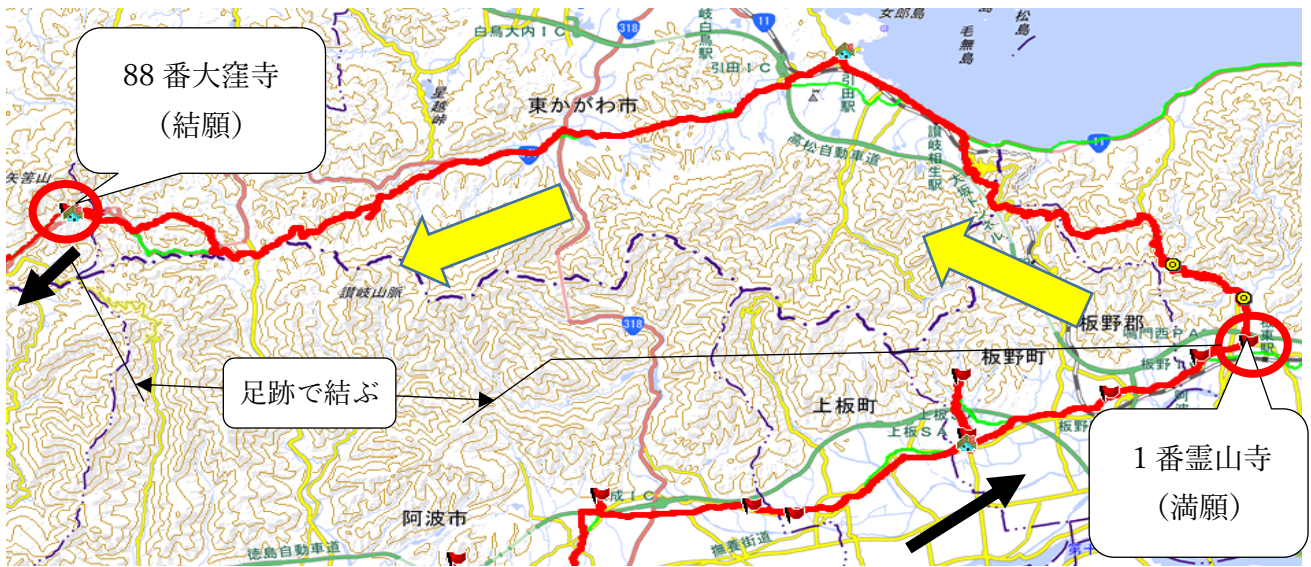


図-22

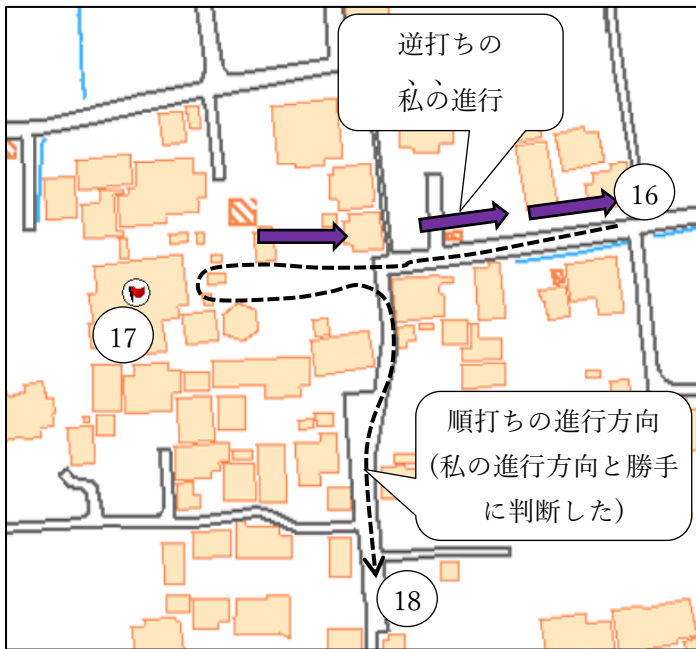


図-23



図-24

11. 感心したこと

22日目4月25日(火)高知県大月町の^{つきやま}月山神社手前の遍路道(山道)には、地元大月小学校の学童が描いた歩きお遍路さんに対する激励メッセージが木々にぶら下げられている。四国遍路は、四国88の寺院(札所と呼ぶお寺)を巡拝するが、**図-24**のとおり、高橋さんの絵柄には、鳥居の形が大きく描かれている。この他に何人も同様の鳥居を描いていた。子供達のイメージとしては、巡拝の対象が神社という錯誤では無く、神様のような何か偉大なものを拝んでいるということだろう、ということではないか。子供達には、寺とか神社とかの区別は無く、とにかく何か神秘的で偉大なもの、というイメージだと思う。寺のマークの卍を書いている人は誰もいなかった。子供達の感性に脱帽である、大人になってもこのような感性が大事である。私自身、実際に寺の本殿と大師堂の前で読経している時に、寺であるという区別は特に意識はしない。神仏に境界は無いのだ、私は本堂・大師堂の前で、無意識のうちに弾みで時々^{かしわで}柏手を打った。時には気分任せ^{はらえことば}「祓詞」を唱えた。吾が国の大和民族は^{かみ・ほとけ}神仏を区別しない善き習性がある

る。一方、想像するに、一部の僧職は“お寺と神社の混同は分かっておらん！”、一部の神職は“葬式事業のお寺と神聖な神社・鳥居と混同するのは学校の教育がなっとらん！”と偉そうにほざく『桎梏ア縫白』——足かせ・手かせの上で自分を袋状に縫っている状態、つまり監獄に入って身動きが取れない状態、思考回路が金縛りになっている、しかも自縄自縛を認識出来ないでいる——の嘆きが聞こえる。

12. 遍路で着用する白衣・菅笠の梵字

お遍路さんが着用する白衣の背中には「南無大師遍照金剛と同行二人の文字」と、その最上位に、図-25のような梵字が書かれているが、これは何なのか。これは弥勒菩薩の種字（梵字）で、読みは「ユ」である。それでは弘法大師と弥勒菩薩の関係は何か、インターネットに乗っていたものを参考に繋げると次のようになる。真言宗の開祖である弘法大師・空海は承知2年(835)3月21日、高野山で入定した。入定とは、現在も弘法大師が高野山で瞑想を続けているという考えで、死は訪れていないとされている。その弘法大師は、仏の聖地と謂われる須弥山で、弥勒菩薩の住む兜率天に同居しているとされ、56億7千万年後に弥勒菩薩とともに現世に再来（下生）すると考えられている。そのため、弥勒菩薩=弘法大師という信仰になっている。梵字1文字で仏様を表すことがあり、したがって、弥勒菩薩と弘法大師を表す梵字は共通の（ユ）となっている。



弥勒菩薩 yu(ユ)

図-25

13. 吾が地元お大師様へのお礼参り

四国遍路においては、無事、満願・結願を果たすと、高野山の奥の院を訪れ、今も瞑想を続けているという弘法大師にお礼参りすることが習わしとされている。前回第1回目へのんろの時は、へんろの開始前の挨拶参りと、へんろ終了後のお礼参りのために高野山を訪れていたが、今回は行かずに、その代りに、へんろの前後に、私の隣家佐藤和夫さん宅のお大師様に参拝を行った。当地区には、明治四十四年八月二十日に設定された四国の写し霊場『堀田（村）・滝山（村）八十八所霊場』がある。その中で、佐藤和夫さん宅が85番八栗寺に比定されており、図-26aのお大師様の像が祀られている。その時佐藤さんからは同図bを以って四国霊場への祈願を託された。もちろん快く引き受けた。



図-26a



図-26b

この85番を配置されたことの良縁について、次のような2点が浮かんで来たことから、佐藤さんに書面にしてプレゼントした。

① 8（八）と5（五）との縁起

「八」を文字の裾が開いた形から来るイメージより「末広がり」と言って喜ぶ。「八」を数字「8」で表し、8を横にすると「∞」となり、西洋では宇宙の無限の広がりという意味で捉えている。よってここでは「八（8）」を吉とする。一方、易经（陰陽という相対的な2つの原理が結合・交錯・変化し宇宙の万象は形成、消長するとし、その変化の過程を論ずる哲学）では、数字を、生数（原初の動かぬ数）と成数（活躍する数／何かを仲介して新しく成る数）に分けて理解する。いずれにしても、生まれ変わりはあるものの有限の世界の規則性を表している。

図-27のとおり、その時の10本の指の(片手)中央値の5が大きな役割を果たし、有限の二つのものを確実に一つに仲介・結合する力を内包しているとみる。

また、「8」は成数の中央値である。さらに「8 = 4 + 4 = 4 × 2」、娑婆の人間が忌み嫌う4 (= し=死)を二つ抱えているのだ。よってここでは「八(8) = 4 + 4」を不吉とする。よって、「85」は、無限性と有限性、吉と不吉の両面・両極の併存・統合を意味している。つまり、一方に偏らない中性力と結合力を発揮するもの、と解される。仏陀の教えの究極「色即是空・空即是色」——偏るな、拘るな、執着するな!に繋がるものだ。

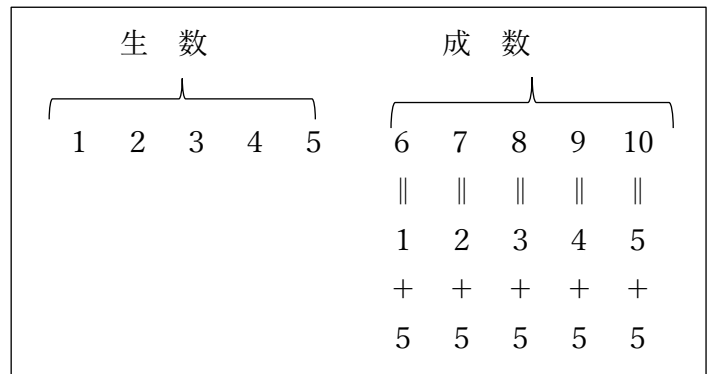


図-27

② やくり寺の深奥性

「八栗寺=やくり寺」とは、「八(や)+ (苦(く)+離(り))」、この場合の「八」は先々(末広がりから)発散すると意味付け出来る。漢文読みにして「八 苦離」(苦しみ離れて発散)、したがって、「日々の生活において、誠実な暮らしの積み重ねのその先には、苦しみは、離れつつ・発散しつつ、心の聖地に出会える、行きながらにして浄土に行き着く。」という意味に解される。

あるいは、漢字を反対に並べて「苦離&八」(苦しみ離れて発散)とし、英語の「クリヤー」(clear)とも読める、まさに澄み切った様、八栗寺の参拝・礼拝は心身の清浄に繋がるというものである。

14. 白衣の最終版

着用する白衣には人それぞれが好みの朱印を貰うが、私のものは図-28a(背中部にだけで正面部に朱印は無し;【補完=その2】に活字化した)のように仕上がった。ちなみに第1回目のへんろの時の白衣の仕上がりは、同図bのとおり(正面部にだけで背中部に朱印は無し)であった。

自宅を発つ時から「亡き家族の戒名」を自署して背負った、あの世から呼び出して同行した。この戒名書き込みについては、1回目の時、ある民宿で相部屋となった岩手県陸前高田市の菅野さんの取り組みを真似たものである、亡き家族との同行感が増してとても良かった、ご縁を下さった菅野さんに感謝してい

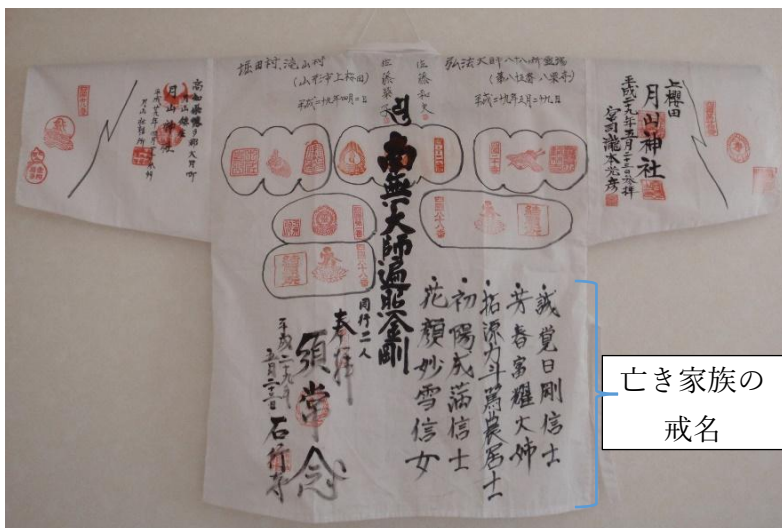


図-28a



図-28b

る。なお、この2回目から御朱印専用の白衣を用意し持参した。

15. 神仏の世界は廣大無辺

お遍路さんが羽織る白衣の背中には、図-28a 中央部にあるように「南無大師遍照金剛」と「同行二人」が記載されている。この同行二人は、「あなた一人ではないよ、御側に必ずやお大師様（弘法大師空海）^{おそぼ}がいるよ、めげるなよ！くさるなよ！弱音を吐くなよ！」という激励を表している。ところが、逆打ちすることの意義は、前述したとおり、お大師様は順打ち（右廻り）で修行している、後を追いかけたのでは永遠に会えないかもしれない、よって会うためには逆打ち（左廻り）せよ、ということだが、一緒には居ないという前提がある。これは、同行二人のイメージとはかけ離れる。（もちろん、追い付けば一緒になるが。))

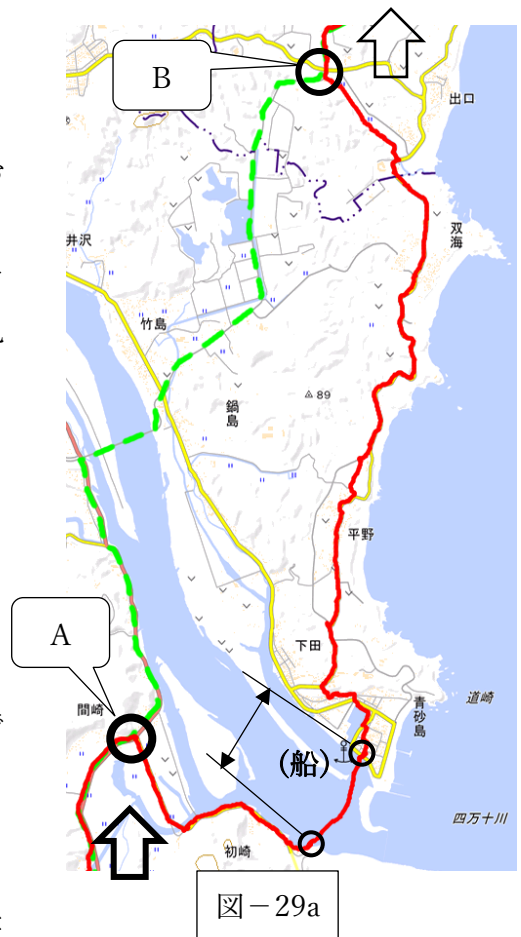
方やいつも一緒、方や一緒に無い・まったく別の所、一見矛盾、しかし、矛盾を矛盾としないところが神仏の世界、よく考えれば、アニミズム（自然に神が宿るとする原始宗教）に生きて来た大和民族にとっては、神仏に境界がないとする概念は当たり前のこと。神仏を区分け・分離したのは、明治新政府における神道の国教化から始まったものだ。「南無大師遍照金剛」の文字を背負うことについて、ここでは平易に、“歩き遍路を通して、御大師様（弘法大師）の素晴らしい教えを学ぶよ、という誓いの表明である”と解釈している。

16. 船利用の結果（長短）検証

歩く事を本来として来た遍路も、昔から、川や海を渡る時は「お許しの舟」と言っずるて、船に乗って渡ることは狡さをしたのでは無く、歩きと同等として扱われて来た。私はこの度のへんろに当たっては、船を利用出来る機会が3回あったことから3回とも利用して見た。歩く場合との時間比較でどれだけ短縮になったのか、つまり、得したのか比較して見たかったからだ。その結果は以下のとおり。なお、地図中のAおよびBは比較検討の対象基点とする。

(1) 図-29a；高知県四万十川の渡航（個人運行）-25日目4月28日（金）

第1回目はB点から点線のルート（左側）を辿りA点に達したが、今回の船利用ではA点から実線（下部・右側）を辿り、B点で合流した。結果は同図(表)bのとおりであり、船利用の方が返って37分長い時間を要した。これは、電話で事前連絡を行い、会話により打合せをしたが、先方の怠慢・ルーズさで船の到着時間が遅くなったためである。なお、手漕ぎ船かと期待したが、何のことはない個人所有の小型漁船であった。風情も何もなし、心底は大の期待



外れであった。

図(表)-29b	距離	時間
㊦；歩き（1回目）	7 km	1 時間 50 分
㊧；船利用（実際）	10km	2 時間 27 分
㊧-㊦	3 km	37 分（長）

(2) 図-30a；高知県浦ノ内湾の巡航船（須崎市営）の渡航／休祭日は連休-28日目5月1日(月)



図-30a

第1回目は、点線の部分（下方）をB点からA点へ歩いたが、今回は巡航船（上方の赤色実線）を利用した。同図(表)bのとおり時間的に32分の短縮となったが、これは距離に換算すると2km相当であり、この日の44.8km・10時間19分の歩行に対すれば6%（誤差の範囲?）、したがって、大きな差異・メリットがあったとは言えない。

図-30b	距離	時間
㊦；歩き（1回目）	16 k m	4 時間 20 分
㊦；船利用（実際）	22 k m	3 時間 48 分
㊦-㊦	6 k m	-32 分(短)

(3) 図-31a；高知県浦戸湾のフェリー（県営）の渡航／年中無休-29日目5月2日（火）



図-31a

第1回目はB点からA点向きに進行したが、今回の船利用ではA点からB点向きに進行した。船は30分または1時間間隔の定時運行となっている。歩く場合は下部点線のルートとなる。同図(表)bのとおり、20分ほどの短縮となるが、誤差の範囲である。

図-31b	距離	時間
㉗; 歩き (推定)	5. 5 k m	1 時間 30 分
㉘; 船利用 (実際)	4. 2 k m	1 時間 10 分
㉘-㉗	- 1. 2 k m	- 20 分 (短)

今回は3箇所(3回にわたって)船を利用したが、結果的には、明白な時間短縮のメリットを感じる事が出来なかった、そもそも、発着には定刻があって、こちらの到着時刻との差異・乖離が生ずる、待ち時間ロスが生ずることからこうなるのもやむを得ない。バス・電車利用の遍路も沢山いるが、特に地方は本数が少なく大きな時間的メリットは無いというのが共通の弁であった。交通機関の利用は、時間メリットを得るといふよりは、体力消耗の抑制というメリットが大きいかもしれない。

17. 我儘な困ったこと

(1) 独りよがりの社会常識を逸した遍路

図-32 写真は38日目5月11日(木)12番焼山寺本堂前で。この一行集団は立派風に見える先達に先導されて本堂の前で読経を始めた。写真はその時の状況であるが、本堂入り口を集団で占拠して他の人がワニ口を振ることも・賽銭箱に近づくことも出来ない、つまり、本堂を塞いでいる・占領している状況になっていた。そこで、私は「正面を開けてください、皆さんだけの本堂ではありません！」と少し語気を強めて言い放った。そうしたら先達が私を睨んだ。これを逆恨みという。先達と謂われる人は、私のような凡人よりは仏道を少しは弁えたものだと威張るかもしれないが、仏道の何たるかを語る資格無し。「そなたも凡人なり、5万円で先達の資格を買うというのではないか。所詮はお金で仏心なるものを買ったに過ぎない、みなの前で言う言葉は形式ばった嘘八百であろう、人を導く資格なし！」また、誑かされた配下の者が7人もいるのに、誰一人として“ここはまずいぞ”と言うのがいなかったのだろう。朱に交われれば赤くなる、類は友を呼ぶで、みなのは汚れて真っ黒けなのだ。



図-32

(2) 社会通念を弁えた遍路

社会常識を弁えた皆さんは、当たり前のことだが、図-33 写真のとおり。こんなにも違うのだ、雲泥の差なのだ、前者の先達と自称する者は私の言う『偶像崇拜の権化』『大人の奇形児性佞人』の仕業なのだ。玉石混交、これが四国遍路の現実なのだ！



図-33

(3) 本堂建屋の中に犬(獣)が入る。

5月12日(金)6番安楽寺で、本堂の中まで犬を抱いて入ろうとしていたので、「許可を取ったの?」と尋ねた、一旦引っ込んだものの私が本堂を離れたら中に入って行った。そこで、寺の関係者に確認した処、うやむやで、獣は入れないという明確な方針は聞けなかった。他の何か所かで確認しているが、「境内に犬・猫の連れ込み禁止」と明示していた。神聖・清浄な境内と叫んでいるのではないか、ましてや本堂の中に獣を入れるということは絶対禁止にすべきである。この住職も表層的でまやかしの仏道を語って大威張りでいるのだろう。動物愛護を言い訳に何でもOKというのであれば、霊場会を脱会し、境内は私設公園とすべきである。

(4) うるさい!

自分だけは良かれと、荘厳・静粛な寺の境内-でチリンチリンと大きな音が出る鈴を身に付け、平気で鳴らしている人がいる、非常にうるさい。寺によっては境内で鈴はならさないで!と禁止を明示していた。これも絶対禁止にすべきである。寺院参拝に鈴が付き物だから良いのだとの独善!だろう。

18. 記念散華のこと

至近年のうるう年——太陽暦と地球の自転速度とのずれを修正するため、1年中に、2月29日(閏日)の月があり、年間に366日のある年が4年に1度設けられる。——は2016(平成28)年であった。四国88ヶ所霊場会では、「四国遍路」の日本遺産認定を記念し、うるう年に合わせて、参拝者に特製の記念散華を授与することとなった。

その期間は、当初は平成28年1月1日より1年間であったが、翌年平成29年5月31日までに延長した。記念散華は図-34のとおり、長方形紙片(横5.75cm×縦9.45cm)の中央部に梵字を描いたもの、その楕円形部を剥がし、四国四県それぞれの専用台紙に貼付し、四枚の台紙を組み合わせることで色鮮やかな一輪の華が完成するものである。この度の2回目へんろにおいて頂戴した88枚の散華を手元に収集出来た。そのまま放置して置くのはもったいないことから、楽天市場店舗の「てくてくお遍路さん」(愛媛県松山市湊町)に依頼し、図-35のとおり、額に表装(有料)して貰った。



図-34



図-35

さて、仏教における華（花）とくれば、^{はす}蓮です。

図-36a 写真は、以前は吾が地元山形市上桜田地区の東北芸術工科大学北東側民地に、2014(平成 26)年までは池一杯に見事な蓮の花が咲いていたもの。本図は 2013(平成 25)年 8 月 23 日(金)に撮影したもの。同図 b の蓮の種は 2014(平成 26)年に採取していたもので今も保存している。しかし、翌年からは枯れ始め、2016(平成 28)年にはすっかり枯れてしまった。

ところで、蓮と同じ水生多年草仲間に^{すいれん}睡蓮がある。図-37a は同地区の伊藤さん宅の池に咲いている。葉の違いを挙げて見る、同図 b の左は睡蓮の葉、右側は蓮の葉である。両方ともほぼ円形で茎が中央を支えているが、睡蓮には切れ込みが入っている。切れ込みは何か理由がありそうだが？



図-36a

図-36b



図-37a

図-37b

19. 感謝・感謝・お陰さま

宿のご主人・女将さん、同宿のおへんろの皆さん、多くの関係機関・組織の皆さん、そして、通りがかりの多くの皆様さんから多大なお世話を頂戴しました。そのお陰で所期の目標点に到達することが出来ました。衷心より厚く御礼申し上げます。桜が満開の時期で、どこに行っても素晴らしい日本の風景を授かりました。

20. 御朱印（御朱印請取）の一覧

次頁以降のとおりです。

本札八十八所から納経の上で頂戴した御朱印 88 印と関連して参拝した社寺分 13 印の計 101 印であります。

一覧は、順礼した札所の入手順序（88 番大窪寺^{おおくぼ}→1 番靈山寺^{りょうぜん}→88 番大窪寺）のとおりで、下図のような配列にしています。

88 番大窪寺 ^{おおくぼ}				

なお、御影^{みえい}についても 1 回目同様に入手可能ではあったが、白黒であり、かつ前回と同じものであることから頂戴することを辞退し手元にはありません。

この 2 回目へんろで持参した納経帳の表紙は図-36 のとおりです。



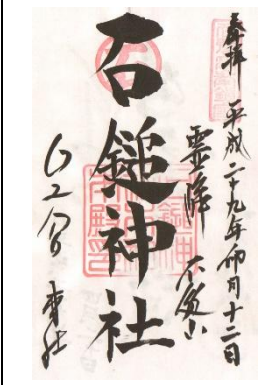
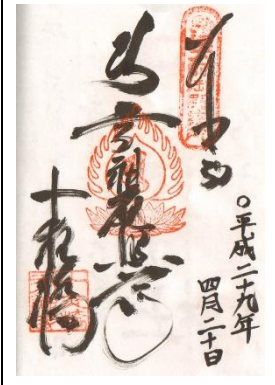



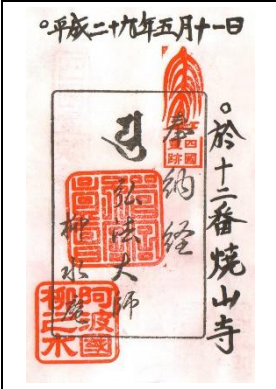
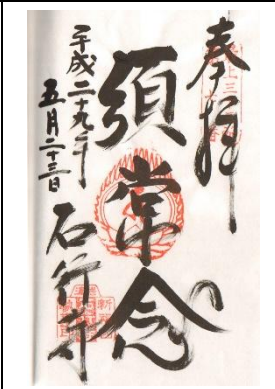
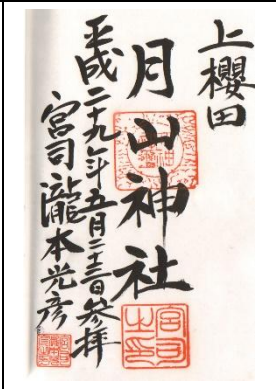
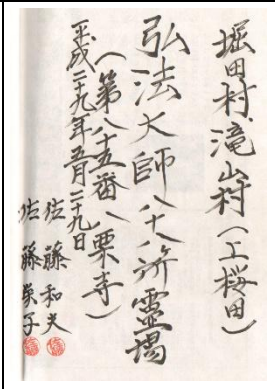
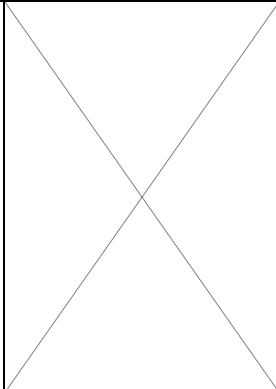
図-36







 <p>四国第一十二番地中 本寺第十一番地 大日如来</p> <p>【13】</p>	 <p>四国第一十二番地山中 本寺第十一番地 大日如来</p> <p>【12】</p>	 <p>四国第一十二番地山中 本寺第十一番地 大日如来</p> <p>【11】</p>	 <p>四国第一十二番地山中 本寺第十一番地 大日如来</p> <p>【10】</p>	 <p>四国第九番地 本寺第九番地 大日如来</p> <p>【9】</p>
 <p>四国第八番地 本寺第八番地 大日如来</p> <p>【8】</p>	 <p>四国第七番地 本寺第七番地 大日如来</p> <p>【7】</p>	 <p>四国第六番地 本寺第六番地 大日如来</p> <p>【6】</p>	 <p>四国第五番地 本寺第五番地 大日如来</p> <p>【5】</p>	 <p>四国第四番地 本寺第四番地 大日如来</p> <p>【4】</p>
 <p>四国第三番地 本寺第三番地 大日如来</p> <p>【3】</p>	 <p>四国第二番地 本寺第二番地 大日如来</p> <p>【2】</p>	 <p>四国第一番地 本寺第一番地 大日如来</p> <p>【1】</p>	<p>以上、本札所分 88 印</p>	
 <p>四国第一番地 本寺第一番地 大日如来</p> <p>【1】</p>	<p>(左は、 88 番に戻り)</p>	 <p>上櫻田 月山神社 壬戌三十九年四月一日参拜 瀧本神主</p>	 <p>来拜 須常念 壬戌三十九年 四月二日 石行寺</p>	 <p>平成三十九年四月二日 堀田村滝山村内 弘法大師八十八所霊場 (第八十五番八栗寺) 佐藤 和夫 佐藤 榮子</p>
		<p>地元の月山神社(前)</p>	<p>石行寺 (前)</p>	<p>隣家の佐藤さん(前)</p>

 <p>奉納 平成二十九年五月十一日 要諦 不変 石鎚神社 石之倉 東江</p>	 <p>○平成二十九年 四月二十日 十夜ヶ橋</p>	 <p>高知県幡多郡大月町 月山鎮座 月山神社 平成二十九年四月廿五日奉納 月山神社々務所</p>	 <p>平成二十九年五月十一日 於十二番焼山寺 弘法大師出経所 右衛門三郎雲御 杖杉庵</p>	 <p>平成二十九年五月十一日 於十二番焼山寺 奉納 本尊阿彌陀如来 一本杖一宿山淨蓮庵 杖杉庵</p>
<p>石鎚神社</p>	<p>十夜ヶ橋</p>	<p>高知の月山神社</p>	<p>杖杉庵</p>	<p>淨蓮庵</p>
 <p>平成二十九年五月十一日 於十二番焼山寺 奉納 弘法大師 杖杉庵</p>	 <p>奉納 平成二十九年 五月二十日 石行寺</p>	 <p>上櫻田 月山神社 平成二十九年五月三日奉納 宮司 瀧本光彦</p>	 <p>振田村滝山村(上櫻田) 弘法大師(十一)濟靈湯 栗寺 平成二十九年五月九日 佐藤 和夫 佐藤 英子</p>	
<p>柳水庵</p>	<p>石行寺(後)</p>	<p>地元の月山神社(後)</p>	<p>隣家の佐藤さん(後)</p>	
<p>以上、101印</p>				

『坂本龍馬脱藩の道』ウォーク（5連泊6日間）記録の概要版

江戸時代の幕末、幕藩体制の崩壊から明治初頭にかかる激動の中で、若い命を賭して国体の新しい形を求め、短い生涯を終えた若き志士達の活躍には感動せざるを得ません。中でも長州の吉田松陰と土佐の坂本龍馬、土佐のジヨン万次郎の生き方に若い頃から感銘を受けています。四国へんろに係るようになって、龍馬が脱藩した時に駆け抜けた道（旧街道）が気になっていました。この「龍馬脱藩の道」とは、龍馬が脱藩する時、高知から下関まで同行した沢村惣之丞そうのじょうの口述を記録した文書に基づいて、関係者が確定し、整備した道であります。

また、その道は、歩く民族学者と言われる宮本常一著「忘れられた日本人」に書かれた「土佐の源氏」の舞台である梶原ゆすはら（町）を通過します。黒田仁朗著「ゆすはら物語」、木村哲也著「『忘れられた日本人』の舞台を旅する」も読み合わせ、どうしてもこの龍馬脱藩の道を歩きたくなり、前述この度の第2回目の四国へんろ一巡の満願・結願に引き続き歩いて来ました。

5月14日(日)、88番大窪寺からへんろ結願証の受領後は、香川県さぬき市志度の旅館に投宿しました。翌15日(月)は、香川県JR高松駅から高知行き的高速バスに乗り、高知駅前に10時40分頃に着きました。その午後は、龍馬誕生の家跡地の石碑、『龍馬のうまれたまち記念館』など、龍馬ゆかりの場所を散策し、高知市内のビジネスホテルに泊まりました。

図-37を参照のこと。

明けて翌5月16日(火)6時45分、高知城前の交差点（高知県内の国道の始終点標柱設置）からスタートしました。主な通過点・峠を記して見ると、朽木峠くちき（標高480m）、布施坂（420m）、野越、神根越（神在居茶堂）、梶原、大越峠、茶や谷（茶や谷橋・竜王宮）、青ザレ峠、葎が峠（950m、高知・愛媛県境）、榎ヶ峠ほろじがとうげ（800m）、封事ヶ峠（750m）、水ヶ峠、石城峠、大森山（700m）、泉ヶ峠（620m）、耳取峠（610m）、石上峠（520m）そして、宿間（亀の甲／船着き場）に到着しました。

龍馬はこの場所（宿間）で陸路を終わり、ここで船に乗り換え、肱川ひじかわを下り伊予長浜に着きました。しかし、私はここ（宿間）で終わる訳にはいかず、現在は、船運はないことから、陸路を引き続き伊予長浜まで歩き通しました。

5月21日(日)10時21分、伊予長浜の船着場跡に到着し、龍馬宿泊の場所(富屋金兵衛宅)に立寄り、終了しました。5泊6日(5.5日)、178kmのスルーハイクでありました。

なお、私と同じ区間（距離）を龍馬は3泊4日で駆け抜けました。

図中の紫色の線は、携行したガーミン社の「オレゴン 650 (地図搭載、緯度・経度、&タイムの電子スタンプ機能)」が記録したGPS軌跡 (私の足跡) です。



《 「龍馬脱藩の道」 ウォークの所感 》

1. 同道のルート

私は歴史街道・歴史古道を歩く時はルートに拘ります。“今の国道まっしぐら”はまったく眼中にありません。権威ある客観的な歴史上の古いルートを歩きたいのです。

そこで予め、春野公麻呂著書「龍馬が辿った道・長州龍馬脱藩の道／NPO ロンプ」を購入し、タナエコラボレーション（株）から小冊子『龍馬脱藩・ゆかりの道』を頂戴し、それらに記載された旧街道・古道を参考に確定したルートを、胸に携行のGPS機器（オレゴン650）にインストール、さらに現地の案内標識を確認しつつ歩きました。ゼロメートル地帯の高知から伊予長浜までの6日間は、いくつもの峠を越え、越えては下り、集落を繋ぎ、これを繰り返しました。里の集落とは数百mほどの標高差を一気に上り下りを行いました。遍路道とは違い、一部に、殆ど歩かれていないと思われる所もあり、倒木やザレ道となっている所もあり、やがては廃道化してしまうのだらうと案じながら歩きました。いずれにしても、龍馬が駆け抜けた当時はこれが一本道であり、間違いなくこの道を歩いたであろうと、龍馬の心境——「日本を根底から変える」という壮大な構想と大きな夢を心に固く刻み、はやる気持ちの躍動をしっかりと持続しつつ、死を覚悟で脱藩する——ということを想像しながら歩きました。

幸いに、天候に恵まれ、足・体調とも絶好調で、快適・爽快な歴史古道のスルーハイクとなりました。この6日間、脱藩の道を歩いている人とはまったく会いませんでした。

2. 二つの宿に対する格別の思い

当初、この道を歩くに当たり、一番思案・苦慮したのは、宿の確保でありました。

(1) 一つ目は、2日目の5月17日(水)のこと。どうしても津野町の真ん中辺、出来れば船戸地区当りに泊まりたかったのです。結果的には、「四万十源流センター せいらんの里」にお世話になりました。ところがここは街道筋から歩く距離にして4km近く離れています。思案していたが、先方のご厚意で当日の送りと、翌日の迎えを賜り、乗用車に乗せて貰いました。送迎点は同じ場所であり、この脱藩の道ルート上に歩かない空白区間は生じていません。途中で携帯電話を紛失した——後記【補完=その3】を参照のこと——その夜の宿でした。快く電話をお借りすることができ、佐川警察署およびNTTドコモに所要の連絡を行い、速やかに対応しました。私一人でしたが、泊めさせて貰い本当にありがとうございました。

(2) 二つ目は、4日目の5月19日(金)のこと。梶原以降は山奥に立ち入るが、葦ヶ峠（高知・愛媛県境）を越えて、どこに泊まるか。結果的には愛媛県大洲市河辺町の「あまごの里（民宿）」にお世話になりましたが、4・5日前にお願いした時は、私用のために不可ということでありました。他にもないことはなかったが、道からあまりにも離れるために、何ともしてもその宿に泊まりたく、前々日に再度お願いしました、相談の上返答する、とのことで一旦電話を切り待機した後、やりくり・調整した、というのでOKを賜りました。結果的には、丁度佳^よい処に投宿出来ました。私一人でしたが、泊めさせて貰い、翌朝早くおにぎり弁当を用意して貰いました、本当にありがとうございました。

3. 上記「土佐の源氏」の盲目老人（主人公）の住処は、橋の下の小屋掛けであったと記載されているが、次のような所でありました。梶原町茶や谷の集落にあり、四万十川の支流の一つに架かり、対岸

(左岸)の^{わだつみ}海津見神社・竜王宮に至る橋(竜王橋)の^{たもと}袂に、もちろん今は昔のものは無いが、2階建て風の建物がありました。(今の建物の前身が本に^{ほん}登場するものと地元の人から確認した。)私からすれば、何か新しい発見でもしたかのような気分になりました。

4. この脱藩の道を歩く中で入る風景は、こんなに山深いかつ急傾斜地によくぞ人が暮らして来たのか、^{たたず}と思う佇まいがあちこちに散見されました。同じく宮本常一著「山に生きる人びと」で紹介されている様々な山仕事、山に係る職業・生業で生計を立てて来たのだろうと想像しながら歩いて来ました、そんな場所に現在も家族居住者が散見され、産婆さんもない所で急に産気付いた出産の時はどうするのかなあと、余計な^{かす}心配が^よ掠め過ぎる旅にもなりました。
5. 札所(お寺)巡礼のへんろも良かったのですが、『坂本龍馬脱藩の道』ウォークは長年の夢であり、2年前の第1回目へんろの時も考えていたのですが、叶わず。今回は、何としても実現したく思い、決行した結果、ついに実現出来ました。龍馬の足跡に上書き出来て本当にうれしく思っています。折に触れて広大無辺の見えない力で助けられて来ました。多くの関係者にあらためて感謝いたします。

【 補 完 資 料 】

【 補 完 = その 1 】 讚美歌『山路越^{やまじ}えて』

【 補 完 = その 2 】 白衣への御朱印

【 補 完 = その 3 】 私の恥さらしチョンボ10連発

【 補 完 = その 1 】 讚美歌『山路越えて』

帰宅してからこの本書を整理している過程で、賛美歌 404 番を知ることになりました。西村清雄——明治 4 年松山藩士の長男として生まれた、当時の普通夜学会(松山城南高の前身)を拓き、翌年校長に就任した。——が作詞した『山路越えて』です。その要点についてウィキペディア（インターネット百科事典）等を参考に記述します。

1903(明治 36) 年 2 月上旬、西村は、宇和島教会で伝道が続けていたアメリカン・ボードの宣教師コーネリア・ジャドソン応援の帰り、鉄道が開通していなかった時代なので、旧宇和島街道（遍路道の一つ）の特に難所と言われた法華津峠（図 H-1）で夜を迎えてしまった。大洲まで五里もあると思うと心細かった。（なお、宇和島から大洲までは旧街道沿いで約 47km ある。）西村は、讚美歌を思い出して、『ゴールデン・ヒル』の歌調に合わせて、歩きながら一句一句を作った、それがこの讚美歌。一節出来るごとに歌ってみたら寂しさが無くなり、かえって山路を楽しみながら歩くことが出来た、そしてついに大洲まで歩き通した。

なお、現在、法華津峠には、その歌碑が建立されている、とのこと。この歌は、私の歩き遍路の心情に重なる処がありとても感動します。この歌碑を何時か見届けたい……。

<西村清雄の歌詞>

1. 山路こえて ひとりゆけど
主の手に すがれる身はやすけし
松のあらし 谷のながれ
みつかいの歌も かくやありなん

2. 峯の雪と ころろきよく
雲なきみ空と むねは澄みぬ
みちけわしく ゆくてとおし
ころろぎす かたにいつか着くらん

3. されども主よ われいのらじ
旅路のおわりの ちかかれとは
日もくれなば 石のまくら
かりねの夢にも み国しのばん。

.....

そこで、この『山路越えて』の曲調がとても気に入り、詩を作って、後記の図 H-2 とおり替え歌にしました。今後、機会があったら是非ともこの峠に立ち寄り、歌碑に直面したい、私の替え歌を歌って奉納したいと思っています。



図 H-1

吾が四国へんろ讃歌—讚美歌

(原曲「山路越えて」讚美歌404番)

▷ しこくへんろは たいとうごけいの むしょうの (エール) Ye-11-が とびかうひろば

1 へんろみちは しきにたえて やまたに こえゆきひとよをつなぐ
うつりかわる けしきのなかに くもみずながれの おしえをまなぶ

2 へんろやどの いちごいちえ はつみの おかたと かいわがはずむ
つきぬゆめを かたちにしたく かなえる ちからを みなからもらう

3 へんろたびは あせがたきで しがらみ たちきる みそぎのぶたい
にしやきたの さかいは いずこ (リスターティングゼン スクラップ アンビルド) Re starting then Scrap and Build ほぼこれど-うじょう

▷ しこくへんろは れきしとしぜんと われらが とけあうすてきな (ワンダーランド) Won der land

▽ 四国へんろは 対等互恵の (敬)

無償のYe-11が 飛び交う広場 (心の基層にある)

一、へんろ道は 四季に耐えて

山・谷越え行き 人世を繋ぐ
山 (やま) 谷 (たに) 越え (ゆ) 行き (ゆ) 人世 (ひとよ) を (つな) 繋ぐ (つな)

移り変わる 景色の中に

(※1) 雲・水流れの 訓えを学ぶ

二、へんろ宿の 一期一会

初見のお方と 快話が弾む (初対面) (同志) (かいわ) (はず)

尽きぬ夢を 形にたく

叶える力を 皆から貰う (かな) (みな)

三、へんろ旅は 汗が滝で

しがらみ断ち切る 襖の舞台 (みそぎ)

(※2) 西や北の 境界は何処!! (にしきた) (さかい) (いずこ) (東西) (南北) (ないたろ)

Restarting then

Scrap and Build (生命力を再起動し再築だ!!)

(※3) 歩々是道場 (ほほこれどうじょう)

▽ 四国へんろは

歴史と自然と吾れらが (天) (地) (人の三才)

素敵なWonder Land (不思議の国) 溶け合う

《上記創作歌詞に込めた心とは》

創作詩に込めた私の思いのほどは以下のとおり。

四国へんろを歩き通して、禅語の「松無^二古今色^一 竹有^二上下節^一」の訓え～人間の本質は同じで
(松に古今の色無し) (竹に上下の節有り)

平等だ。その一方で差別(区別・個性)が存在するのも人間世界なのだ。⇒「同じの中に違いを含み、違いの中に同じを含む」⇒陽中陰あり・陰中陽あり～を感じる機会が多いことに気が付く。

[prologue] 《 ▽ 四国へんろは対等互敬の無償のYellが飛び交う広場 》

(恵) (心の基層にある)

四国へんろは、様々な人との出会いの中で、生き方の違いを是とする対等互敬(恵)の心が一人ひとりの基層にあるからこそ、『人それぞれ』『十人十色』の相互尊重が発露し、無償(対価を求めない、押し売りしない、嫉ま^{ねた}ない、僻ま^{ひが}ない、奢ら^{おご}ない)のエール(Yell/真心から絞り出す声援・激励)の交換が飛び交う広場なのだ。

《 一、へんろ道は四季に耐えて山・谷越え行き人世を繋ぐ

移り変わる景色の中に(※1)雲・水流れの訓えを学ぶ 》

へんろ道は、四季折々に襲って来る風雨・地震などの大自然の驚異に耐えて、山や谷を越え乍ら人世を、つまり集落、すなわち社会活動を繋いで行く移動経路として厳然と大地に刻まれている。——その路(道)に乗り歩行を進めるに伴い、移り変わる景色の中に、禅語の「(※1)行雲流水(雲が山に阻まれても、水が岩に邪魔されても、何事もなかったように通り抜けて行く。)」の訓えが重なっているのだ、と気が付く。

《 二、へんろ宿の一期一会初見のお方と快話が弾む
(初対面) (同志)

尽きぬ夢を形にしたいと叶える力を皆から貰う 》

へんろ宿(泊まる宿のみならず道すがらの休憩所も)に於いては、初見(初対面)の顔ぶれであるものの、同志の仲間に昇華し快話が弾む、まさに、一生に一度の出会いの場だからこそ、損得・競争・批評の感情は出ない。——そんな雰囲気故に、未来を語り、希望や夢は尽きなく湧いて来る。そして内発して来る、その夢を形にしたいと、つまり実現したくなる精神力と行動力は、みんなから刺激されて、触発されて生まれ来るのだ、と気が付く。

《 三、へんろ旅は汗が滝でしがらみ断ち切る ^{みそぎ} 禊の舞台

(※2) ^{きた さかい い ず こ} 北の境界は何 処!? Restarting then Scrap and Build (※3) ^{ほ ぼ これ どう じょう} 歩々是道場 》
(南北) (ないだろう) (生命力を再起動し再築だ!?)

へんろ旅は、山道では喘ぎながら、舗装道路では照り返して汗が噴き出る。そんな歩行の中で、様々な雑念が浮かんでは消え、消えては湧き出すが、やがて、日常生活でしみ付いた陋習の ^し 柵が断ち切られて行くのを覚える。まさに、怒涛流れの汗の滝壺で ^{ろうしゅう} 禊 ^{しがらみ} を行っているに等しいと感じる。———そうすると、へんろ ^{すげがき} 菅笠に書かれている4句の偈文「(※2) ^{げもん} 迷故三界城、悟故十方空、本来無東西、何処南北」がシャワーとなって降って来る。そこで、私の生命力を、Restarting (再起動) し、Scrap and Build (再築) へ展開して行く! すなわち、「(※3) どんな環境(時・Time、所・Place、場合・Occasion)に置かれようと、一つひとつの出来事が『道(タオ)』を学ぶ研鑽の場であるのだと気が付く。

[epilogue] 《 ▽ 四国へんろは歴史と自然と吾れらが溶け合う素敵なWonderland 》
(天 地 人 の三才) (不思議の国)

四国へんろは、外国からの人達も含め、地球規模の多彩な人々が集い、歴史と自然と人々が溶け合う素敵な・素晴らしい、不思議でおとぎの国のような処でもあるのだ、と気が付いた。

【 補 完 = その 2 】 白衣への御朱印

白衣に貰った御朱印（本書 23 頁の図-26a）を活字化して見たものが、次々頁図 H-5 のとおりで配置の意図を記述する。

その 1；白衣首筋両肩には、当地区「四国写し霊場」の 85 番八栗寺に比定されている私の隣家佐藤和夫さんからの出発時、帰宅時の自署を配した。

その 2；白衣の左右腕側には、太平洋側の有名で大きな半島の岬近くにある本札 38 番金剛福寺（足摺岬）と本札 24 番最御崎寺（室戸岬）を配した。

その 3；その内側左右に同じ漢字の『月山』を冠するもの、かつ神社の、読み方が異なる四国の「^{つきやま}月山神社」と吾が地元の村社「^{がっさん}月山神社」を配した。

その 4；中央上部の左右に本札 39 番延光寺（亀）と本札 20 番鶴林寺（鶴）を配した。

本書図-26a のとおりの白衣ご朱印では分かり難いので、御朱印帳に貰ったものを記載（再掲）すると図 H-3 のとおり。39 番延光寺においては中央の「ご本尊名」に重ねる本尊宝印として「亀」のマーク（スタンプ）を入れる、20 番鶴林寺においては「鶴」のマーク（スタンプ）を入れ、この二つを貰うと「鶴亀」（亀鶴）となり、お目出度い縁起ものになると云われている。



図 H-3

なお、逆打ちのために、39 番延光寺（亀）⇒20 番鶴林寺（鶴）の順で貰った。

その5；中央部中段には、節目の3か寺——右側にスタート 88 番大窪寺、左上に満願の1 番靈山寺、その下に戻ってゴールした 88 番大窪寺——を配した。

その6；左下には吾が菩提寺の石行寺（兼最上三十三観音霊場 7 番札所岩波観音）を配した。

その7；右下には私の亡き家族5人の戒名を私が自署した。

.....

関連してちょっと御朱印の意味に触れておく。図 H-4 の左は1 番靈山寺（満願札所）、右は 88 番大窪寺（結願札所）のものである。神秘的、幽玄性、力強さを感じ不思議な絵柄に思える。



背中部

堀田村・滝山村
(山形市上桜田)
平成二十九年四月二日

佐藤榮子
佐藤和夫

弘法大師八十八ヶ所霊場
(第八十五番八栗寺)
平成二十九年五月二十九日

第三十八番
金剛福寺
(足摺岬)
高知県大月町
月山神社
平成二十九年四月二十五日

第39番
延光寺 (龜)

第42番
佛木寺

第20番
鶴林寺 (鶴)

最御崎寺
第二十四番
(室戸岬)
山形市上桜田
月山神社
平成二十九年五月二十三日

第1番
靈山寺 (満願之証)

第88番
大窪寺 (結願所)

第88番
大窪寺 (結願証)



南無大師遍照金剛
同行二人

- ・誠覚日剛信士 (亡弟)
- ・私を書いた文字
- ・芳春富耀大姉 (亡母)
- ・拓源力斗篤農居士 (亡父)
- ・初陽成満信士 (亡義父)
- ・花顔妙雪信女 (亡義母)

最上三十三観音霊場
第七番岩波観音
石行寺
平成二十九年五月二十三日

(お寺の仲間)

図 H-5

私の恥さらしである。本件2回目四国へんろにおける私の阿呆・馬鹿のチョンボ10連発大行進（ハプニングオンパレード）の中身に触れます。

標記本件のようなことは第1回目四国へんろには無かったが、今回における私の心の覚低歩行状態——体調は正常で眠気などの自覚症状はないものの、注意力や集中力が居眠りしている程度まで低下した状態で歩行すること——による心身誤作動の恥さらしを記述します。余りにも多いので、^{のう}脳みそが壊れたのかもしれない？！

その主な2つの原因は次のとおり。

□1；睡眠不足です。

自宅の日常においては、就寝時刻22時前後に横になると10分以内には眠りにつきます、いわゆる「不眠症」ではない。しかし、へんろで歩いて1日9時間ほど、30km以上歩いて疲労があるはずなのに熟睡出来ないのだ。今に始まったことでは無く、過去のスルーハイク遊学紀行においても同様であった。元々「枕が変わると眠られない」もの。睡眠云々については、医学的に色々な理由付けがあるようだが、ここでは一々深入りしないことにする。

□2；靴ずれです。これも今回に始まったことではない。スタート直後の初日から両側の足裏に豆袋が出来た。振り返ってみると、第1回目と第2回目（今回）は同じ靴を履いて歩いた、つまり、今回の方が1日の歩行平均距離・歩行平均時間、歩行平均時速が劣っていたのに、こんなに^{ひど}に酷くなったが、直接の原因は、スタート時、靴紐を強く縛り過ぎたことと、体が慣れないうちに飛ばし過ぎたことによるものだと思っている。

以上の原因から平常の歩き方が不能となり、心が発散し、気持ちの集中力を欠き、支離滅裂状態になったことが最大の要因であったと思った、以下に失態の全容を並べてみます。

1. 宿の鍵を持ち出した

5日目4月8(土)のこと。前日宿泊した75番善通寺近くの宿の部屋鍵を持って来てしまった（泥棒して来た！）ことに気付いた。直ちに連絡し、翌日4月9日(日)通り掛かりのローソンよりレターパックで送付した。

2. 菅笠の置き忘れ；その1

6日目4月9(日)のこと。68番^{しんねいん}神恵院過ぎのドコモ店（Wi-Fi利用方法で立ち寄り）で、つい先ほど立ち寄ったローソン観音寺店に菅笠（図H-6）を置き忘れたことに気付いた、タクシーで往復し取り戻した。時間ロスは往復15分（片道500m）で終わった。



図 H-6

3. 着衣用白衣を忘れた；その1

15日日月18日(火)のこと。汚れても良いものとして一番上に着ていたもの。45番岩屋寺で白衣を着用していないことに気付いた、2日前の道後温泉のとある宿に忘れていたことが分かった。2日間も気付かなかつたのだ、相当あほや。結果して廃棄を依頼した。

4. 着衣用白衣を忘れた；その2

17日目4月20日(木)、別格8番札所十夜ヶ橋に立ち寄り、休憩で分かったこと。またもや白衣を着用していないことに気付いた。思い出すに、この前の休憩地点に置き忘れたのだろう——そもそもなぜ、羽織っている白衣を脱ぐことになったのか確たる理由を思い出せない！——と想像は出来たが、往復に半日以上掛かることから、この別格札所で即新品を購入した。

5. 大洲中央病院で点滴

17日目4月20日(木)、数日前から身体がふらつくようになり——覚低現象（覚低症状）、ここ2日間は歩きながらゆらゆらの状態となった。歩くことは出来たが、歩行距離を短くしたことで宿泊地には午前10時に着いてしまった、宿のチェックインまでは余りにも長く、それならばと、医者に行き受診することとした。図H-7のとおり、多数の患者がいる中で比較的早めに診て貰った。女性の清家先生であった。

結果は原因不明、YD ソリター T 3号輸液（500ml1袋）とピースリミン注（10ml）の点滴を受けた。同日10時10分～12時40分。1,190円（安い）。

ふらつきが完全に収まったのは翌日4月21日(金)の夕方であった。

なお、急に襲うふらつきは、1年に1回くらいは自宅でも経験はしている——へんろでは2日程度で解消した、脳梗塞か、心臓病かの取り越し苦労・・・過去に、一度、山形市立病院で精密検査を受診、結果は異状なし・原因不明、なお、今も常用の薬はなし。

図 H-7

.....

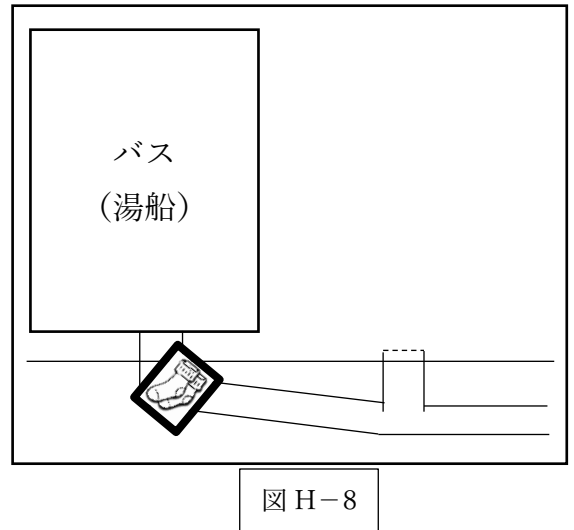
関連して。日常の自宅では、睡眠障害に陥ることはまったく無いと言っていいが、『寝床が変わる・枕が変わる』と熟睡出来なくなる体質であり、今回のへんろでは睡眠不足や疲れの蓄積によるものと考えられるが、しかし、第1回目四国へんろでは生じなかった事象である。

帰宅して知ったのが、「睡眠負債」ということの障害について、これに侵されると、がんと認知症の発症リスクが高まるということだが、上記のように物を忘れるというのは、認知症的現象ではなかったのかと思う。ただ、帰宅後は初日から熟睡でき、体調不良を自覚することはなく、直ぐ様平時の日常に戻った。へんろ期間中は、いわゆる急性睡眠障害に陥ったのではないかと勝手に想像している。

6. 風呂の排水詰り

19日目4月22日(土)「ホテルアイリン」でのこと。近年は民宿においても家庭用の洗濯機に乾燥機を備え付けており、着衣は毎日洗濯していた。この日の宿にも設置されていたが、一旦、宿建物から外に出る必要があったことから、部屋内のユニットバスの中で洗濯した。その際、排水溝に靴下を詰まらせてしまって、汚れた湯が排水不能になってしまった、従業員からも見て貰ったが、回収出来

なかった。平謝り！ 部屋を替えて貰い費用の支払い請求を申告していたが、その後連絡がない処では、結果的にはユニットバス内で回収出来たものと思う。断面図 H-8 のように排水管曲がり部に引っ掛ったのではないかと想定した。



7. 頭部の火傷^{やけど}

21 日目 4 月 24 日(月) のこと。数日前からおでこの上の頭部に鼻くそのような黄色の塊^{かたまり}のものが手に付く事から気になっていたが、途中で道路工事に従事していたガードマンに見て貰ったら「つゆが染み出て、少し赤くただれているみたい」と言われた。そこで思った、ここ 3 日間ぐらいは日差しが強いものの、風が強くなる時は傘が煽られることから菅傘を被らないで歩いた。要するに、強い日射のために肌が焼けたのだらうと思った。

8. ゆうちょ銀行カードの磁気破損 (使用不能)

24 日目 4 月 27 日(木)のこと。4/13(木)・4/20(木)の 2 回はカードで引き落としした。そして、この日高知県土佐清水市の土佐清水窪津郵便局で使しようとしたら磁気破損 (使用不能) が判明した。

対応は { ①打ち切って帰宅する
②妻から現金を送って貰う } の 2 通りあるが、①はまったく眼中になし。②については受け取る場所について、 { ①先々の宿
②先々のお寺
③郵便局留め } の 3 通り考えられた。

①・②は電話説明になるが、先方に迅速に理解・納得して貰うための事情説明が難しいことから、③郵便局留めを選択した。当該局の小野局長に相談した結果、親身になって対応してくれた。二日後の 4 月 29 日(土) に窪川郵便局 (高知県高岡郡四万十町茂串町 1-30) の集配センター宛ての局留めとすることがベストということになった。結果、そこに妻から送金して貰った。土曜日であり普通は一般の人を受け入れないが、特別の配慮を賜り集配センターで対応して貰い、図 H-9 のとおりに受領出来た。

なお、ゆうちょ銀行以外のキャッシングカードを携帯していれば、問題はなかったであろうが、他方、それは紛失の場合のリスクが高まることになり持参はしないこととしていた。



図 H-9

ところで、窪津郵便局の小野局長の、窪川郵便局の関係者の対応に鑑みて、「人間は、こんなにまで親切に、まったくの初対面は他人の難局・災難に対し、ここまで自分事のように心を砕くことが出来るのか・・・」 “そこにいたではないか”、と強く衝撃を受けた、というか、感激した。大震災が起きている訳ではないのに・・・。これぞまさしく、お接待——無償の愛、無償の奉仕、慈愛の仏心が備わっているなあと感じた。感謝・感謝・大感謝。

逆の立場で、私が郵便局長だったら、・・・“お客様、無理ですね。・・・”と冷たい門前払いにできなかったらどうか?!

9. 携帯電話を紛失

「龍馬脱藩の道」ウォーク2日目(通算44日目)5月17日(水)のこと。

佐川町と津野町の境界地の朽木(クチキ)峠から約5km先の道の駅で携帯電話の紛失に気付いた。使用の記憶を辿るとクチキ峠ではないかと想像は出来たが、戻るとなると3時間ほどのロスとなる、ただし戻ったとして、そこにあるとは限らない。しかし、タブレット端末を持っており、電話機能は無いがSMS(ショートメールサービス)は使えたので、妻とはどこかで一度電話連絡を取って事情を共有出来れば問題ないこと、残り3・4日の行程であることからして、よって、戻って探すことを諦めた。

宿の「せいらんの里」に着いてから、その電話を借りて、同日15時50分頃佐川警察署(高知県高岡郡佐川町丙3555/0889-22-0110)に届け出た。同日9時~10時頃の間であろうと「逸失届67番」で受理された。引き続き即座にNTTドコモ(0120-524-360)に「利用中断」(第三者使用拒否のロック処理)の手続きを行った。

帰宅後の5月22日(月)NTTドコモ成沢店に取替えを依頼し、翌日手元に入った。

半年後に警察から連絡があった、しかし、その時は既に新しいものに交換し、不要物となっていた。

・・・・・・・・・・・・・・・・

関連してリスクマネジメントに触れておく。スマートフォン(この時はHUAWEI社のミニタブレット)を持参しており、これは電話機能、情報通信(インターネット検索)、電子メール、カメラの複合機能を有する、紛失の場合はこれら全てを失うことになる。それは最悪の状態となることから、私は、この当時は普段、

ら、私は、この当時は普段、

{	①電話と電子メールはガラケー	}	の機能に分散・特化
	②カメラはコンパクトデジタルカメラ		
	③スマホは情報通信(インターネット検索)		

させている、なお、この時はスマホ(HUAWEI社のミニタブレット)には電話機能の契約していなかった。

やや重量は増す(相応の充電器含む)ものの、そのようなリスクを想定していることから問題なし。したがって、この度、電話機能のみの喪失となったが、残りの二つ(メールとインターネット情報検索)は確保していたために、動揺せずに冷静に対応出来た。

10. 菅笠の置き忘れ; その2

列車へ忘れたこと。通算48日目5月21日(日)のこと。計画した全てのウォーキングを終了し、帰宅途中、同日12時43分大洲発13時17分松山着のJR特急「宇和海」の列車内棚に前記図H-6

と同じ菅笠を置き忘れた。“全て終わったことだし探さなくても良い！”と直感したが、他方でとても
気になった。後日、松山駅に確認した処、届けられていることが判明したので着払いで送付して貰
い、後日受領した。

.....

前記のとおり、2回目も菅笠を忘れたのだ。忘れに気付いた時の直感は、取り戻さなくても良い、
捨てても良いというものであったが、どうもひっかかるものがあったり取り戻したが、その要因に係る
ものを二つ取り上げる。

① 傘の頭部には、「南無大師遍照金剛」「同行二人」と梵字「ユ」と「4句の偈文」——『迷
故三界城、悟故十方空、本来無東西、何処南北』が書かれている。その細部は第1回目四国へ
んろ報告書に書いた。ここでは、『東西南北』について思う処がある。南極点に立てば全ては北
に見え、北極点に立てば全ては南にある、と見え、東西南北の区別は無くなる。人間の都合で
区分けして使い分けたに過ぎない。人間は、本来、心身共にこの瞬時の立ち位置（特定不可）
と極点とを往来・行き来が可能なのに、移動自由なのに、東西南北の方角でしか見えなくな
る。方角の意々を増やした（北北東とか、南南西とか・・・）としても、人為的に境界線を入
れての認識である。自然界から見れば『東西南北』は何の意味もなさないのだ。

② 似た言葉に禅語の「面^ハ南見^ニ北斗^一」がある。読み方は「南に面して北斗を見る」である。
北斗（=北斗七星）は北の空にあるから、南の空に向かっても、北斗星が見えるはずもないの
が常識である。しかし、南と思っていた方角は勘違いで、実は北を向いていたという場合だっ
てあり得るではないか。あるいは、南を向いていたとしても、北にある北斗が眼前に浮かぶよう
な柔軟性が必要なのではないか。物事を二項対立（物事概念を二分すること。内側と外側、男と
女、主体と客体、・・・）で論じていく常識を一度取り払って見よ、「分別知」を超え離れた処—
—「無分別智」の世界に本当の根本的な解決策があるもの。自分一人の人間の経験などという範
囲は、地球上77億人分の1、さらには銀河系宇宙の広さからすれば、無限大分の1=ゼロ、す
なわち、「俺がオレが」と威張り散らす、我欲を張った処で何の意味も^{もたら}齎さない、価値はないの
だ。

=====

へんろ期間中は、毎晩寝つきが悪く、かつ熟睡出来なかったのに、自宅に戻ったその夜は、ベッ
ドに入るとスーッと眠りに付くのでした。毎回同じです。私だけが特殊なのだろうか？

【 おわりに 】

その1；

「人それぞれ」「十人十色」を是とする素晴らしいステージ ～ へんろお四国病の真因 ～

“人それぞれ”“十人十色”という表現は、他人を無視するという安直なものではありません。へんろではとても嬉しいこと、喜ばしいことに沢山出会えました。そして「お四国病」というものの本質が見えて来ました。

夜の宿はビジネスホテルもあるが、遍路宿と言われる民宿や家族経営の旅館における朝夕の食事の時が楽しくなります。様々な移動手段（歩行、自転車、バイク、自家用車、バス・電車）の人達との交流の場となります。また、道（ルート）沿いに沢山ある休憩所での語らいの時が楽しくなります。テントと寝袋を背負った野宿派とも数多く行き交います。各人からありとあらゆる話題、多様な意見が出され、自由な雰囲気の中で静かな意見交換に華が咲きます。優劣を競うような場にはなりません。個人同志故に物事を組織立てるような場にはなりません、つまり何かを決める場ではないのです。

老若男女がその社会的身分は無関係に、平らかにおしゃべりが出来るのです。自由奔放にして諸々の情報交換の場となります。しかも、個人の内情に干渉するがごとくの姿勢はまったく生まれません。

そんな状況・雰囲気を端的にいうと、次のような感じ（①～⑨）です。（――逆説的には、日常生活は、このようなことの間環境に右往左往・右顧左眄うこさべんしているということになります。そのような人生観には、私の本心は組みしません、馬耳東風で、右から左へのスルーパスです。社交辞令で一時うなづ頷くことがあっても。――）

- ① 上から目線の説教がましく、こうしなければならないという強制論を大上段に振り翳かざす人はいません。
- ② 自分の得意分野を一方的にベラベラしゃべり捲まくる、知識（浅知恵）をひけらかす人はいません。
- ③ 「・・・してやったのに・・・、あなたのことをうんと心配していたのに・・・」などと善意を押し付けるような、善意を装うような人はいません。
- ④ 『私の言うとおりにそうだろう、なぜあの時俺に賛同してくれなかったの・・・』などと同調・同情を強いる、支配欲の牙を剥くような人はいません。
- ⑤ 聖人君子になったつもり（本人は自覚していない、心の無意識層に沈殿）で、他人の思想信条を否定する、他人の性格を指摘・批判する人はいません。
- ⑥ 仲間を囲うとするような、群れ・タマリを作るような、主従・上下関係を画策するような言動の人はいません。
- ⑦ 目前の人を、あるいは目の前にいない他人を扱下ろして、悪口・影口を垂れて人格・人間性を否定するような人はいません。
- ⑧ 自分の過去の成功体験を誇る、それを今も実行しているかのような自慢話をする人はいません。
- ⑨ ねたみ・ひがみ・ゆがんだ競争心で嫌味を言うような人はいません。

その2；

“遍路仲間は人それぞれ”、始終、無意識の中に相互尊重・対等互敬（恵）で対応するようになります。だからこそ皆^{みんな}に自然と共有の心が芽生え、未来志向で語り合うようになります。無理に意識・強調しているではありません、天の力で自然に生まれる平等・対等の関係性、無意識の中から押し出される直感で語ります。この雰囲気は最高なのです。

ところで、私の言う「対等互敬（恵）」とは、簡単にいうと次のとおり。

- 1 文字のとおり、お互いの人間性（社会的な権利義務）は対等・互角であり、お互いのそのままの有り様を尊重・尊敬することをいう。
- 2 お互いが攻守（責・受）の肝を教え学び合う人生指導員足をそれぞれが自覚している関係性をいう。
- 3 自分の思想信条に賛同・賛否を求めない。

日常生活環境の娑婆を脱して、ある面、仮死状態の中で六道輪廻を体感するような旅路ですから、人間関係のしがらみが解き放たれて行くのを覚えます。

私は思います。自分や他人の過去の栄光は、この私にとって今この瞬間何も役立ちません。過ぎ去った栄光はあの時は輝いたにせよ、次の瞬間に過去領域に置まれてしまったこと故に、生きているこの時点（中今）^{なかいま}においては何の意味も為しません。あるいは、誰かその人の今の社会的地位を借りて、建前と主張を強弁しても、この私にとって今この瞬間何も役立ちません。全てスルーパスです。人間の全ての価値は今この瞬間に表れているそのままの姿だけです。過去を積み重ねての今です、過去の地位や身分はこの今は何の意味も何の価値も為しません。過去を誇るのは単なる自慢話です。そもそも人間力相互の優劣比較は無意味であり、人間性（性質・性能）は物事としての比較対象外であり「元々、一人ひとりの命の尊厳は完全な平等」なのです。

歩いている時は日常生活の諸事が浮かんで消えますが、長続きしません、しつこく脳裏に残ること、こびりつく・しがみつくようなことはありません、無心、無我夢中の心境で、歩く・歩け・歩き、一意専心、ただひたすら2足の歩^{あゆみ}を進めるだけということになります。

私のへんろに理屈っぽい意義付けはしません、足を延ばしたいという立寄り地点（目標ポイント）は定めるが、精神的な何かを得ようなどという確たる目的は何もありません。ただ、へんろで歩きたくなるだけです。

一期一会の清涼感！ 神仏（サムシング・グレート／言語で解説出来ない何か偉大な力）に託して心の整理・洗濯をする、へんろをしているとそんな雰囲気に気付きます。

“人里離れて仙人になったつもりで孤立を楽しむ！”、そんな気持ちはさらさら無く、しがらみの無い新しい人達との出会いの場となるへんろの舞台がとてもよいストレス解消になるのです。この歳になって思うに、「今更、他人から一切の束縛を受けたく無い、干渉されたくない、他人からコントロールされたくない、・・・徹頭徹尾『自由人』でありたい！」、この気持ちを100%受け入れてくれるのが、へんろの舞台なのです。自分の自由度を確かめたいのです。上下・左右・前後、この人間球体をどれだけ「自由」で膨らませるか、「自由」でどれだけ膨らんでいるのか、私自身にとってはその

程度が問題なのです。私自身が『^{しっこくあほうじ}桎梏ア縫自』(自分で縫った袋に入り、かつ檻に入っている)状態を最大の恥としています。つまり、有限知の限定された経験という先入観で自分を縛っている状態にあること、あるいは、これまで生きて来た経験を金科玉条にして誇ることを一番の恥とします。

歴史学者の磯田道史氏は「無償の遊戯性」というキーワードを使っておられます。結果の損得や優劣をまったく求めない、「無目的にただ楽しいからやる」というところに真の充実感や真の人間交流が生まれるものとの確信が得られます。

四国へんろは、

一期一会と
対等互敬(恵)と
お接待(無償の愛、無償の奉仕)

の世界、本当に素晴らしいです。

しかし、帰宅し日常生活に戻ると、透明感を失い、見る見るうちに毒されて行くのを自覚します。なさない!!!

突然ですが、“私への^{ぼりぞうごん}罵詈雑言を好きに言え それはそのままブーメラン返し ”

その3；

私自身は、中高生の頃から群れるのが苦手な孤独に偏する性分です。

ところが、私の会社の現役時代を振り返ると、給料の多寡と直結する昇進昇格が最大の関心事で自分に対する人事評価、つまり、外からの眼が一番気になったものでした。したがって、いつも群れていないと疎外感を感じてしまう心境でした。趣味としてきた登山は若い頃は20人ものパーティを組んでいたが、次第に周りの人数は減少し、気の合う二人でしばらく続いたが、この10年は殆どが一人の山旅・歩き旅となりました。また、知人・友人が沢山いることが立派な人間ではないかと錯覚した時期もあったが、妥協しなければならない人間関係ストレスからの解放を求めるようになり、還暦を過ぎて年毎に、群れ・タマリを嫌うようになり、今は孤独の自由・解放感がたまらなくなりました。自然な気持ちです。

ちょっと横道に逸れるが、私の年齢の域に係る高齢者・老人を励ますような書籍は沢山あるが、中でも五木寛之さんの「孤独のすすめ<人生後半間生き方>」(中公新書ラクレ)に共感する処があるので抜粋し感想を入れて見ます。

「・・・たとえ視力が衰えて、本を読む力が失われたとしても、回想する力は残っているはずです。残された記憶の翼を羽ばたかせたら、脳内には無量無辺の世界が広がっていく。誰にも邪魔されない、一人だけの広大な王国です。孤独であればあるほど、むしろ王国を広げ、豊かで自由な風景を見せてくれる。歳を重ねるごとに孤独は強くなり、孤独のすばらしさを知る・孤立を恐れず、孤独を楽しむのは、人生後半期のすごく充実した生き方の一つだと思います・・・」

また、この本の新聞広告には「元気な百歳老人、孫に囲まれる老後。本当にそれだけが幸せでしょうか。人生後半は十人十色。自分なりの豊かさを探す^{たの}愉しみがあるはずです。」とあります。

実は、五木寛之さんほどの著名な方は、友人が沢山いて、孤独なんてとんでもないというようなことを延々と述べるのかなあとはいきや、そうではないのです。かといって、人間関係を遮断しているということでもないのです。84歳(2017・平成29年)の五木さんは心を包み隠さずに人間本性のあり様・変遷を語っているものと思います。

「間柄が親しい（親し過ぎる）」ということは「遠慮と妥協の産物」「ストレス製造工場」と私は思うようになりました。私も率直に思うが、歳を重ねるごとに孤独は強くなります。五木さんから応援・是認されたようでうれしくなります。しかし、対等互敬（恵）にはストレスは入り込む余地はありません。私は孤独を楽しむ、と言って、社会や他人に迷惑をかけるような傍若無人の振る舞いをすることは毛頭考えていません。また、仙人のように人里を離れて山奥に住むなどということもまったく念頭にありません。そうすると、私にとっては、一期一会を体感出来るこれまでの一人による歴史街道スルーハイイクや四国へんろや登山が一番性分に合う、身の丈に合い一番ストレスが溜らない行動であるということを実感するようになっていきます。

そんな思いから、『孤独の須弥山しゅみせんワールド四国へんろ』は、孤独満喫の最高舞台、本当に良かった！孤独最高舞台をサポートしてくれた一期一会の出会い、私の思いに彩りをトッピングしてくれた現地の皆みんなに感謝・感謝の大感謝です。『孤独の須弥山ワールドの四国へんろ』は、孤独を楽しむ最高の舞台でしたが、一転、覚めて、最後に、どろどろのたわごとです。

今……。今だに、けおしりつりの青みは取れず、青みが再生した、洩垂れ小僧の我が身、『歩歩是ほほこれ道場』を肝に命どうじょうずべきなりと思う今日この頃です。。。

その4；

私の口癖は、「人生の 推進力は 夢で持つ ！」です。

しかし、夢を見た・持っただけでは夢とは言わない、それは錯覚・錯誤・妄想という。夢と希望は行動を伴い形にしてこそ、はじめて夢を描いたことになります。

どんな分野で活躍しようと、どんな立場に居ようが、高い社会的身分に就いていようが、

- ・他人に向かって規制的・統制的に使った言葉は、
- ・あるいは社会に向かって公言した一切のもの・ことは、
- ・あるいは指揮命令系統の立場でしゃべった言葉は、

如何なる高度な理論をかざし、美辞麗句を並べようとも、そのとおり、現実化・実現しないもの、あるいは客観的根拠を持っていないもの、はたまた他人の文献を切り貼りし想像で膨らませただけで自らの実証性に欠けるもの、いわば『有言実行・言行一致』に成っていない言動はまったく価値のない空理空論と、私は断言しています。（ただし、それらのことを個人の心の内で思うのは自由勝手・得手勝手です、むしろ、想像力醸成のためには必要な態度です。）

しかし、私は、外に向かって、そのような人の人間性（人格）を否定する発言はしません、なぜなら、そもそも私はペベであるから他人の人格・人物評を論ずる資格はない。そのような人の話は馬耳東風！で流します。

夢を持ちては行い、行いては夢を持つ、「夢と行」の両者は車の両輪、表裏一体、相即不離の影の如し。「知行合一」（知識＝行動の等式成立で初めて知識に価値が備わる。）もまったく同じです。公序良俗に反しない限り、適法である限り、グレーゾーンに入り込まない限り、実現のための手法は問わない！ その人に相応しい手法に優劣・正邪はなし、と思っています。

さてさて、四国へんろは2回で終結して良いのだろうか？ 「順打ち→逆打ち」で終わって良いのだろうか？ 「煮え滾たぎらない、不満が残る、充足に満たない何かがある！」 ならばどうすれば良い

のか？・・・。

そして、最後に思うに、

禅語より『てつじゅはなひらくにがつのはる鉄樹花開 二月春（古木も春になるとちゃんと花を咲かせる）』－（自己流解釈）生命力が減退しつつある孤独な老木も、厳しい冬を越せば――夢・希望に向かって諦めなければ、やがては春の時期は訪れ花が咲くが如く、夢が叶うのだ、と言い聞かせています。

強気と弱気が行ったり来たり。。ジグザク乱高下・・・、その機微に人生の妙味ありです。

=====

本書の後段に主な写真を添付したかったのですが、本書仕上げ直後、パソコン内のデータ整理、ハードディスク入替の作業時に操作ミス（トラブル）をしでかして、写真データを全て消失させてしまいました。これが残念です。

しかし、私の知人が言っていました。「若い頃から日本国内はもとより海外も含めた旅行、登山などを行い、沢山の写真を保管して来たが、意図的に、家族写真の一部を残して他は全て廃棄した。」この話を思い出し、私の写真データは残しておいて何の価値があるの、追憶・回顧・思い出・・・考えているうちに焼失した写真には執着がなくなりました。

(完)

2017 (平成 29) 年 12 月 31 日 (日)

山形県山形市上桜田

☎080-3338-3738

✉dreamyok@hotmail.co.jp

